



## 5. 法人統合への動き（2018年1月～6月）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-04-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 辻, 洋 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10466/16371">http://hdl.handle.net/10466/16371</a>

## 5. 法人統合への動き (2018年1月～6月)



1月1日 十大ニュース(8) 世界文化遺産が近くにある大学に

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願  
いします。新年にまたがりましたが、昨年の振り返りをあ  
と三回します。



-----  
南大阪大学コンソーシアムの理事長、公立大学協会の理  
事、大阪府原子炉問題審議会の委員長、九州工大の経営審  
議会委員など公職を担当している。なかでも「百舌鳥・古  
市古墳群の世界遺産登録を応援する堺市民の会」副会長と  
しては、古墳群の世界遺産日本推薦を得た時にテレビ、新聞に写った。

実は、その前年推薦から漏れたのだが、「推薦をとれたときに、テレビに映って、万歳をしてく  
る」とまわりに公言していた。当日、堺市役所で発表を待つときに、クスダマ割では、どの位置取  
りをするかまで考えていた。「はにわ課長の横」。これが狙い目だと思った。

「テレビに映っていましたよ」「新聞に出ていましたよ」と多くの方に言ってもらえた。来年の  
7月に登録されることを目指して、関係者を応援していきたい。  
私のプレゼン資料の一枚になっている。



1月2日 十大ニュース(9)

実に多くの海外の来訪者に来ていただいた。中百舌鳥キャン  
パスであればなるべく学長室に来ていただくようにした。会議  
でI-siteの場合は、オープニングかクロージングかレセプション  
であいさつさせてもらうようにした。

今年も海外からの来訪者があれば、教員であろうと学生であろうとなるべく面談するようにした  
い。招へいされた方はぜひ声をかけてほしい。そして、府大に滞在されている間に招へいた教員  
だけでなく、職員も含めて交流し、海外の大学運営について意見交換してほしい。職員のグローバ  
ルマインド醸成は急務であり、そういう場を設けていこうと思う。

会食してお互いの文化を知り、その不思議さを理解するのがいいと思う。異文化コミュニケーション  
という言葉があるが、異文化は見たり聞くだけでは理解できないものをそういうらしい。

昨年の来訪者には、府大ファンになって  
もらったのではないだろうか。去年は、持  
ち帰るのに負担にならぬ軽量のお土産グ  
ズ(マグネットなど)も整備。今年に来訪  
者にもそうなってもらえるにしたい。みん  
なでしよう。世界に翔く地域の信頼拠点  
になるために。



1月3日 十大ニュース（10）

昨年、一年間に「研究で」「課外活動で」「国際交流で」「難関資格取得で」といろいろな分野で活躍した学生さんが報告に来てくれた。「府大に来てよかった」と思ってもらえたケースが多くて、話を聞いていて楽しかったし、私も彼らから学ぶことが多かった。すべてのこのページで紹介しきれしていないのが残念だ。



驚くような成果をあげているが、会ってみると、ほとんどの場合は、普通の悩み多き学生さんで、ちょっとしたきっかけで、チャンスや成果を得ているように思う。自らやりたいことを見つけて実行した学生もいれば、誰かに背中を後押ししてもらって実行できた学生もいた。



今年も昨年同様、広報と一緒にロールモデルとして紹介して、多くの学生さんに続いてもらえるようにしたい。

一方で若い時には悩みをかかえる学生さんも少なくない。直接的間接的にいろいろな話を聞いている。図書館を活用するとか、いろいろな相談窓口を訪れてみるとか、先輩と話してみるとか一人で抱え込まないようにしてほしい。

1月4日 大阪新年互礼会

大阪府、大阪市、大阪商工会議所、関西経済連合会、関西経済同友会が主催する新年互礼会が、大阪国際会議場であり出席した。例年より、出席者が多かったように思う。

今年の話は、11月に開催地が決まる、2025年の万博。1970年の万博の思い出を桂文枝師匠が語るという演出（写真左下：知事と市長も一緒に「万博、いらっしやい」）もあり、また、昨年法人税が5%増えたということや、インバウンドの観光客が（まだまだ）増え続けていることなどで賑やかだった。



前の万博の時は高校2年だった。すごい人出だったこと、このイベントを契機に吸い殻・チューインガムのポイステが激減したり、地下鉄に整列乗車することが当たり前になったりしたという記憶が大きい。社会的規範というものを学んだ気がする。

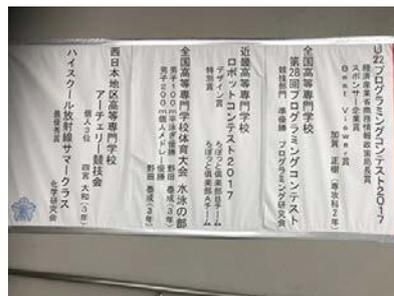
1月5日

新年になり、久しぶりにカバー写真を変更した。白板を多数並べておくのが好きで教授時代からそのようにしている。左にはメッセージボードをおいて、来客などに自由に書いてもらっている。

1月6日 高専生の活躍

公立大学法人の中には、大阪府立大学と大阪府立大学高専の二つの学校がある。高専から府大の3回生に編入したり、高専の専攻科を修了し、府大の大学院に入学する学生も少なくない。

5日に新年の挨拶を行うために、高専に出張した。ちょうど、玄関に最近の高専生の活躍が掲示されていた。



#### 1月7日 十八番の天橋立の話

挨拶などに使ういくつかの話を持っている。その一つを主に留学生がお世話になっている山岡育英会の会誌に紹介した。もうご存知の方もおられるかもしれないが、許可を得て大学のWEBページにも掲載した。



#### 1月8日 今週の主な予定

一昨日、阪大の入試判定・出題ミスが報道された。我々も苦い経験を何度かしている。今回の場合、外部からの指摘に対して対応が遅れたことが問題視されるだろう。人間がやる以上ミスを皆無にすることは難しい。ミスが起こった可能性があると思った後の迅速な対応が大切だ。改めて自己チェックして注意したい。

9日：米国セントルイス大学からの来客面会（看護学研究科）

中国大学との交流に関する打合せ

10日：学位記授与式（論文博士の2名）、陵友会新年会（ハービス大阪）

11日：女性研究者支援に関するロゴデザイン表彰式

12日：南大阪大学コンソーシアム関係打合せ

13日-14日：センター試験



#### 1月9日 米国からの来客と面会

看護学研究科がセントルイス大学の Lee SmithBattle 先生を2週間にわたり招聘し、講義など指導をお願いしている。その合間に お会いする時間をとって頂いた。来日は はじめてということだったが、大阪の文化を含め 楽しんで頂いているようだ。

一緒に来ていただいた大川先生は、近く 同大学に滞在して 研究される。また、一緒にクリーブランドの会議に出かけ プレゼンテーションもするという。TOKO、TOKO と 大川先生のことを 呼んでおられた。本学の博士後期課程の共同指導などできないか、いろいろな可能性について議論したが、これは大川先生に滞在中に情報を集めたり、交渉していただくことにした。12日には 羽曳野キャンパスで講演があるので、ぜひ、多く方に参加いただきたい。世界に翔く地域の信頼拠点になるために。



#### 1月10日 リーディング大学院進学を相談しませんか？

産業界を牽引する博士人材の養成を目指してはじめて「システム発想型物質化学リーダ要請プログラム」。略称S iMS（シムズ）という。ものづくり（物質）とことづくり（システム）の両面

を学んでもらおうというもので、企業で研究をされてきた方にアドバイスしてもらおう制度になっている。

奨励金制度は、国の支援がなくなったこと、カリキュラムができてきたことなどにより、プログラム着手後に比べるとかなり劣っているが、その分、プログラムの完成度は高まってきているのではないと思う。短期的には不公平感を感じるかもしれないが、生涯を考え、(学者としてだけでなく、起業力や経営力やイノベーション力を含めて) 研究力をつけたいなら、ぜひ応募を考えてほしい。



日本では、博士人材はまだ民間や行政では認められていないが、欧米では高く評価されている。20年後には、欧米並みに評価されるのではないだろうか。評価されるように育成するのがこのプログラムの目標でもある。

応募するかどうかにかかわらず(まだ資格のない低学年であっても)、人材育成センターのスタッフと相談してみるといいと思う。相談したからと言って受験を強いることはない。

1月11日 過去は取り戻せなくても活かすことができる

今回の阪大の入試採点出題ミスでその関係者に対する言葉としたい。本学にも昨年阪大を不合格と判定されたが、採点をし直した結果合格と判定された学生がいるようだ。その府大生が阪大への編入を希望した場合にはきちんと支援したい。当該学生にとっては、「この一年は何だったのだろうか」と思うだろう。当然のことだと思う。

一方で、ミスはこの社会ではどうしても起こる。大きいか小さいか、起こす側になるか起こされる側になるかがあっても避けて通れない。どちらの側にたっても取り戻すことができないことが多い。ただ、それを活かすことはできるはずだ。

本学に在学して、阪大への編入を希望する学生、迷っている学生については、しっかり相談に応じ、支援をすることになっている。本学の単位を阪大にもっていける可能性が高いので、後期定期試験をきっちり受けて確実に単位をとることが大切だ。

本学を退学して、阪大に編入した場合に、「本学でいた一年が無駄でなかった。将来に活かせる」と受け止めていただければ嬉しいがどうだろう。

1月12日 新年の式辞

4日に行っており、すでに大学のHPでもアップしています。

-----

(前略) いろいろな方に「府大は研究力があり世界的だ」「教育改革も進んでいる」「公立大学協会の活動で、府大生が他大学生をリードしていて元気がいい」「地域貢献も極めて良好だ」という評価を頂いています。大変うれしいことです。一緒に大いに誇ろうではありませんか。



一方で、「いい活動をしているのに世間に知られていないのではないか」さらには「知らせるのが下手だ」「伝わっていないことを自覚できていない」「そういう努力を怠っているのではないか」

という府大愛からくる厳しい指摘を受けています。経営会議や教育研究会議の外部委員だけでなく、在学生や卒業生、教職員からも指摘されています。

(略) 全員で府大を広報できる情報を集め、それを共有し、その情報をより広くより遠くへ発信することで、この課題をクリアしましょう。そのために「府大・高専全員広報宣言」というシールを作成しました。名札にぜひつけてください。(後略)



### 1月13日 おすそ分け

本日、明日はセンター試験。キャンパスの朝は-1度。府大池は少し凍っていました。受験生が入構する前に、(邪魔にならぬように)試験場を回りました。私は二日間、学長室にて待機です。

お正月明けに各地からのお土産を頂きました。他にもありましたが、写真を撮ったものだけ。センター試験の待機中に頂きます。ありがとうございました。



### 1月14日 今週の主な予定

二日間のセンター試験が無事終わったという報告を受けた。関係者の皆様、お疲れ様。そして、ありがとうございました。さて、今週末に、このFBページを開設して2年。ページへの「いいね」ももう少しで500。毎日の投稿は200人~800人に届いているようだ。これからも周辺の様子や考えていること、感じたことを発信していこうと思う。

15日 学内 16日 教育研究会議他、月例の学内重要会議。

17日 終日、九州工業大学 経営審議会に外部委員として出席

18日 来客3件、学内打合せ。

19日 午前、理事・副学長らとの定例会議。午後、霞が関周辺の官庁勤務OBとの懇談会

20日 国立国際美術館 開館40周年記念展 「トラベラー：まだ見ぬ地を踏むために」 見学

### 1月15日 学位記授与式

1月10日、民間会社での長年の論文をまとめ、論文博士を申請されたお二人に学位記を授与しました。おめでとうございます。



1月16日 センター試験が終わり、出願待ち

受験生の方へ、もし、迷われているならぜひ大学のホームページで我々がどのような教育・研究・社会活動をしているか見てください。大学関係者、産業界から高い評価を受けています。近くには百舌鳥古市古墳群があり、キャンパスにはとてもきれいな桜が多数あります。

大学の理念は「世界に翔く（はばたく）地域の信頼拠点」で、「多様」「融合」「国際」という視点を大切にしています。

先の大学改革で「理系強化」を打ち出したので、「文系がない」と誤解されがちですが、福祉、心理、経済、経営などを幅広く学ぶことができます。「大阪府立大学（学びたいキーワード）」で検索すると出てきます。



1月17日 法人には大学と高専がある

私には、公立大学法人大阪府立大学理事長という立場と大阪府立大学学長という2つの立場がある。前者の法人には大学だけでなく、大阪府立大学高専という学校がある。寝屋川にあって、5年制の教育を行っている。日本独自の教育制度で多くの優秀な卒業生を輩出している。5年で卒業して、大学に編入する学生もいる。

もっと大学と高専の連携を強めたい。教員交流、職員交流、学生交流などいろいろなものが考えられるはずだ。他の大学から「府大には高専があっていいね」と言われる。今後もそうありたい。(写真は新年最初の教職員会議に出席した時のもの)



1月18日 学びはいつまでも

ずっと、以前、ある記事で、大学とは、(1)知っていることを教えたい人(2)知らないことを学びたい人が集まる場だと書かれていた。そのこともあり、なんとなく、前者は教員であり、後者は学生かと思こんでいた。

今思えば、そんな単純な切り分けではなく、研究というのは知らないこと(知られていないこと)を学ぶとも言えなくはない。今の立場になってから、学生からそして若い教職員から、いろいろなことを学んでいる。会議で学ぶこともあれば、食事中に学ぶこともあれば、何かの議論やメールのやりとりのあとにしぼし、沈思しているときに「気づく」という形で学ぶこともある。成功例からだけでなく失敗例から学ぶこともある。事例を一般化して学ぶこともあれば、原理を具体化して学ぶこともある。

近く、卒業・修了する学生も多いが、「学びはいつまでも」ということを覚えておいてほしい。

1月19日 手洗い、うがい、マスク・・・

学内でもインフルエンザが流行っているようです。学生さんは後期試験や、卒論・修論・博論発表さらには国家試験、教職員は入試など迫っているので、それぞれ対策をとってください。

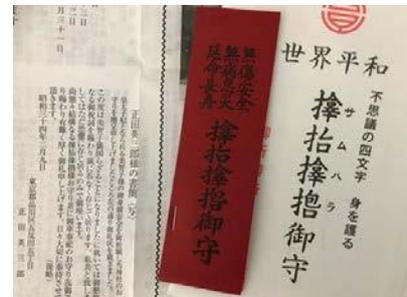
かかったら、登校を控えてください。普通の風邪より重くなりやすい病気ですし、周囲に感染することを避けましょう！！

#### 1月20日 留学生OB（インドネシア）からの便り

年を明けて、二人の元留学生からメールを頂いた。二人とも2005年前後に府大にいて、どちらもインドネシアの大学で教鞭をとっておられる。示し合わせたわけではなさそうなので、全く偶然なのだろうが縁を感じる。

お一人からは、夏にバリ島で学会を企画しており、**Keynote Speech** をしないかというお誘いだった。研究から離れてしまっているので、辞退しようと思ったが、講演をすれば翌日、府大インドネシアOB会（名簿を管理されているらしい）を企画してくれるという。そう聞くと行きたくなる。過去の経験談ぐらいしかできないが、それでもよいと言ってもらえるなら受けようかと思う。

国ごとの同窓会がどのようになっているかはわからないが、人的ネットワークは大学にとって大切な宝物だ。小さなネットワークでもつないでいくと大きくなる。**Greater OPU Network** の構築を目指して。



#### 1月21日 今週の予定

昨日、弾除けのお守りを頂きに、サムハラ神社（阿波座にある）に行った。例年、三が日の間に行くのが今年少し遅れたが、何かパワーをもらったような気がする。

22日 さくらサイエンスプランで理学系研究科の松坂先生が招へいされた台湾師範大学の方々との面会。

23日 午前、大阪市立大学に出張し、荒川学長と打合せ。

25日 公立大学協会の理事会、学長会議で終日 上京。

26日 学内会議とOB面会。

なお、27日～29日は那覇、石垣島、西表島に休養。



#### 1月22日 Stepping into the unknown

20日、国立美術館に招待されて、「トラベラー：まだ見ぬ地を踏むために」という展示を見学した。開館40周年を記念するもので、英語タイトルはなかなか衝撃的だ。

美術館で作家との出会いが演出されたり、時間と空間の多層を表現しようとしているもののようなのだが、残念ながら理解するのが難しかった（がその分、理解しようと頭を使った）。これまでにない新しい美術館の姿を探求しているということでこのようなタイトルになっているのだろう。5月6日まで。



#### 1月23日

長い人生のなかで大学生として過ごす期間のごくわずかです。しかしその後の人生を大きく左右する、重要な時期でもあります。私のターニングポイントも大学生の時でした。それまでは、大学

に入ったら最低限の勉強だけして、あとは旅行でもして、将来は数学の教師になろう…、そんなふうに思っていました。ところが、偶然出会ったある人の一言がきっかけで“資源がない日本でこれから求められる仕事は何か？ 効率良くものをつくる知識産業だ！”と考えるようになり、進む道を変えました。そのおかげ



で、民間企業の最先端技術に触れながら実学を身につけることができましたし、若い研究員と一緒にわくわくするチャレンジも経験しました。英語が苦手な自分が海外に渡って、世界の頭脳が集まる環境で研究に没頭することもできました。

みなさんが大学で経験することは、すべてが将来の財産になります。価値観が一変するドラマティックな出会いもあるでしょう。これまでの固定概念が崩れて想像もしなかった道へ進むことになるかもしれません。

未来の自分が想像できる人も、まだ想像できない人も、自分を磨きながら“なりたい自分”を見つけてください。本学はそのために、できる限りのことをしています。若いみなさんの未来に大きな影響を与える場を提供できることは、私たちにとって大きな喜びでもあります。

受験のために行う勉強には“正解”があります。しかし社会に出れば、答えがすぐには見つからない問題を、多くの人と協力しながら解決していかなければなりません。創造力が必要です。大阪府立大学では、正解が一つとは限らない難題にも対処できる力、最善策を見出す力を養うユニークなカリキュラムを用意しています。

これからの時代、社会で活躍するには、文理の垣根を超えた深い教養と幅広い知識が必要です。そこでまず、専門領域を超えた学びの楽しさを経験してもらいます。グループで一つの問題を共有し、自分の考えをプレゼンテーションしたり、他人の意見を聞き入れてディスカッションしたりする。そんな経験を通して視野を広げ、学域・学類を超えた友人たちとの交流も深めていきます。必ずや生涯忘れることのできない経験となり、その後の大学生活に向けてインパクトある第一歩を踏み出せるはずです。

大阪府立大学は、垣根のない大学を目指しています。在校生と卒業生のつながりだけでなく、地域住民のみなさん、本学の学生を採用したり一緒に研究したりしてくださる企業など、多くの人々や組織とのつながりを大切にしています。

世界とのつながりも重視しており、欧米諸国とはもちろんのこと、アジア諸国とも積極的に交流をはかっています。こうしたさまざまなつながりを経験して実り多き学生生活を送ってほしいと願っています。

みなさんが社会の中心となって活躍している未来を想像してみてください。私が学生のころは、インターネットという言葉は聞いたことすらありませんでしたし、スマートフォンやAI（人工知能）もこれらが登場したときにこれほど普及するとは考えられていませんでした。20年後にはきっと、思いもよらない新しい技術が普及し、想像できない道具が一般的になり、現代のいくつかの職業が消え、逆に存在しない職業が誕生しているはずです。

そんな未知の世界に翔くみなさんが、これから情熱をもって取り組める夢や希望をみつけられるよう、あらゆる角度から応援していく、それが大阪府立大学のありたい姿です。無限の可能性を秘めたあなたの活躍を期待しています。

1月24日 国立台湾師範大学のみなさんがショートステイ理学系研究科 分子科学専攻の松坂教授のお世話で、台湾師範大学の教員・学生が滞在している。さくらサイエンスプログラムによる招へいだ。私は、昨年9月に同校を訪問しているので、そのときの写真を見せたところ、彼らが行ったことのない建物もあり、大いに盛り上がった。



同校から、工学域と現代システム科学域に交換留学している二人の学生も合流し、彼らを通して府大の魅力や交換留学の誘いを行った。彼らは、府大で単位を取得し、それを師大に持ち帰るといふ。台湾語で、先生は「老師」、師大を逆にした「大師」は(お坊さんの偉い人だけでなく、優れた)専門家という意味だそう。以前は、教員養成に主眼があったそうだが、台湾も少子高齢化で、尊敬される専門家一般を養成している。



#### 1月25日 女性研究者ロールモデル集

本学の理念は「高度研究型大学—世界に翔く地域の信頼拠点」であり、「多様」「融合」「国際」というのを大切な視点にしている。その「多様」という視点を展開する中で、国の支援も受けて、女性研究者支援に取り組んでいる。過去三冊のロールモデル集を発行してきた。今回、新たにできたので、冊子だけでなく、Webでも公開した。

学内で行っている活動を少しでも多くの人に伝えたい。きっと参考になり、刺激にもなると思う。

#### 1月26日 東京同窓会(2月4日(日):明治記念館にて)

毎年お招きいただき、出席している。4年前には大雪で交通機関が大混乱したが、今年は大丈夫だろう。幹事の方から、下記を紹介するよう依頼を受けた。誘いあわせて顔を見せて頂ければ・・・

25年3月以降卒業の皆様は、3,000円の年会費のみで懇親会にも参加できるそうだ。

#### 1月27日 固定観念の打破

大学では、「今までの常識と考えられていたことを疑い、発想をかえて、考え、動け」ということを学生によく指導する。これは教授だった頃の私だけではないだろう。多くの学生もこういう指導を受け、研究や課外活動をしている。最近では「イノベーション」という言葉が闊歩している。



しかし、大学運営に関わっていると、「どうしてこれまでのやり方を正しいと思い込むんだろう」と思うことが多い。会議の進め方にしても資料の作り方にしても、私を含め教員も職員もとても保守的だ。少し、メタ（抽象化）にして考えた資料にするとか、相手の立場になって代替案を示すとか、全体の地図を描いて今を位置づけるとか、発想の大転換がなかなかできないようだ。自戒を込めて、呪縛があるのであれば、取り除くように努めたい。

#### 1月28日 29日の週の予定

先週は寒い一週間だった。公立大学協会の学長会議（写真1）のため上京したが、雪のため新幹線の遅れが予想され、5時過ぎに起きて出かけた。ひと眠りしたあとの冬の富士は美しい。さて、29日 休暇（27日から沖縄へ）、30日 シドニー工科大学からの招へい教授面会

31日 学内会議等、 1日 辞令交付式

2日 学内定例会議、監事との連絡会議

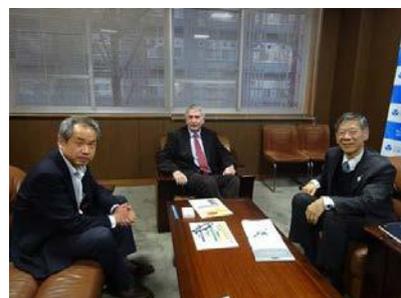
4日 日帰りで東京同窓会（明治記念館）

あっという間に一月が終わる。



#### 1月29日 平成30年度一般入試志願状況

本学の一般入試の出願期間は1月22日（月）から31日（水）までだ。志願状況については毎日更新して発表している。きっと受験生たちは気にしているだろう。それと同じで我々も気になるところだ。受験する機会に大きく学力を伸ばしたという声をよく聞く。受験生の皆さんには、健康に注意して最後の追い込みに励んでほしい。



#### 1月30日 シドニー工科大学のドカーティ先生と面談

招聘教員として二週間半、大阪に滞在し、現代システム科学域と経済学研究科の授業や研究指導を頂いているドカーティ先生が、近藤経済学研究科長と一緒に面会に来てくださった。昨年にも来ていただいている。

シドニーは国際都市であり、先生が教鞭をとられているビジネススクールでは半数が留学生だそう。日本の少子高齢化の話、大学のグローバル化に対して職員の海外研修を始めた話、アジアの大学と合同サマープログラムを始めたい話などを紹介し、意見を頂いた。

同大学の博士課程の学生が半年ぐらい府大に滞在し、両国の比較に関する研究をしてジョイントデグリーを出せればいいなと思う。いろいろな可能性を探る議論をするのは楽しい。世界に翔く地域の信頼拠点になるために。

#### 1月31日 台湾の友人と東京で面会（25日公大協出張時）

積雪の中、上京中に富士山の写真をFBでポストしたら、台南大学の李教授がそのコメントで「東京にいる。来るなら会いたい」との書き込み。公大協の学長会議後、その懇親会があったので、「19時まで所用があるので、次回にしよう」とリプライしたと



ころ、「19時でもいいから」ということで、一時間、東京駅でお茶した。

「銀の鈴」で待ち合わせたところ、それが気に入ったのか、写真とともにポストしてくれた。首都大学のゲストハウス（八王子市）に滞在中という。言葉の通じないところに電車を乗り継いでわざわざ一時間強かけて来てくれたことに感激。

そういえば、彼と初めて会ったのは12年前のフランスの学会で。これまで研究室レベルで何度も学生交換を行ってきたが、この夏からは、大学レベルでジョイントサマープログラムを始めるべく企画してもらっている。もちろん、12年前には今日まで交流が続くとは夢にも思わなかったのだから、出会いとは面白い。



## 2月1日 多様性について

本学の理念は、「高度研究型大学・世界に翔く地域の信頼拠点」であり。「多様」「融合」「国際」という視点を大切にしている。我々は誰かに接するとき、専門分野、価値観の多様性ととともに、それらを担う教員、職員、学生の多様性を重んじることにしている。このことを肝に銘じておきたい。この「多様」について、学生向けに2016年度の入学式で一部触れているが、教員や管理職の立場になるとコーチとして多様性を見る力が大切だ。

-----  
(前略) かなり昔の話ですが、優勝したある野球チームに三人のピッチャーがいました。彼らは、多くの場面では相手打線を抑えていたのですが、時に「この試合を負けてはいけない」という大切な試合で打ち込まれることがありました。

打ち込まれたとき、コーチはどうするのか。コーチの言った話が面白かったのです。一人のピッチャーの場合には、優しく慰める。「今日は運がなかったね。次回頑張ろう」というのでしょうか。一人のピッチャーには、厳しく怒る。「そんなところにそんなボールを投げたら打たれるのは当たり前だ。何をしているのだ」とでも言うのでしょうか。そしてもう一人の場合には、何も言わず、そーっとしておく。コーチには、きっとその選手が自分自身で反省できるという確信があったのだと思います。

この話から何を学びましょうか。私は「人には多様な個性がある」ということだと思います。失敗したときに、慰められて力を発揮できるか、しかられて力を発揮できるか、そっとされていれば力を発揮できるのか、人それぞれです。ですので、「友達が…するから私も…」というのではなく、「自分」で考えるようにしてください。私たち教員も皆さんを見ています。

皆さんは、人生においてどんなコーチを持たれるでしょうね。いいコーチとの出会いが大切だと思います。コーチのアドバイスに耳を傾け、自分の強み・弱みを理解して、強みを伸ばし、弱みを克服することができるようになってください。

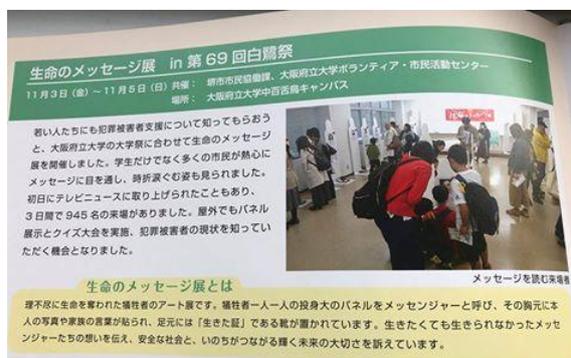
この話には後日談があります。三人のピッチャーは「先発」で投げることを夢にしていたそうです。そのため、二人のピッチャーは、チームの事情で「救援」になることを求められたときに、「引き受けられない」と断りました。残りの一人は「コーチだけでなくファンなど周りに期待されることをしよう」と考え、立場を変えたそうです。「自分のやりたいことに固執するか、周りから期待されることを引き受けるか」。皆さんにもこういう選択を求められる時がいずれ来ると思います。

(後略)

## 2月2日 大阪被害者支援アドボカシーセンター

「アドボカシー」とは、権利擁護・代弁・支援という意味だ。昨年、白鷺祭で「命のメッセージ展」があり、私も参加した(写真)ところ、その記事を掲載したニューズレターが送られてきた。多くの学生、教職員も見たのではないだろうか。

「等身大」のパネルの足元に「生きた証」の



「靴」が置かれていたのが印象的だった。交通事故、いじめによる自殺など理不尽に命を奪われた方々の無念を強烈に知った。生きてくても生きられなかった。

こういう場に立つと、自分の生きている意味を見つめなおすことができる。本学には、死までいかなくとも何らかの被害を受けて学生生活を無念に思う学生や苦しんでいる学生がいないだろうか。残念ながら「いる」ことを認めざるをえない。大学から異常なハラスメントを除去しなければならない。無念や苦しみが無い大学でありたい。



## 2月3日 留学体験記

以前、ある方に「文明人であるかどうかは、記録を残すか残さないかだ」と言われた覚えがある。古来、日記や法律やいろいろな文書が残っているとそれを読んだ人の参考になる。甲骨文字に始まり、紙の発明はこの記録を残すことに大きく貢献し、今では Web が記録を共有することに大きな力を持っている。

学生さんに海外にもっと行ってほしいと願っていて、いろいろな支援制度を用意しているが、その制度を利用した場合、必ず報告をしてもらうようにした。本日チェックしたら、2017年度だけで、短期研究留学が8件、短期プログラム参加が30件、国際学会＋交流協定機関訪問が35件掲載されていた。

多くの学生さんに読んでもらう⇒刺激を受けて、大学の制度を探したり相談する⇒海外に出かける⇒体験記を書く

こういう流れ（スパイラル）がもっと大きなものにならないだろうか。結構いい取り組みだと思っているが、どうだろう。

## 2月4日 今週の予定

一般入試の出願を先週締め切った。節分もすぎ、暖くなるものもう少し。卒論・修論がこれからの学生さんはインフルエンザなどにならぬよう健康に留意して過ごしてほしい。

6日 記者懇談会（大学の広報をします）

8日 COC フォーラム（最終報告会）

9日 高専関連打合せ

その後の主なイベント（2月後半はいつもに比べると予定があまり入っていません）

15日 和歌山大学学長と打合せ、学生 FD スタッフインタビュー

16日 高大接続改革講演会（新しい入試に関するもの）

25日 前期試験

## 2月5日 応援しています。

医療系の国家資格試験の受験準備をしている皆さん、風邪などひかぬよう注意して、頑張ってください。マスクをする、手洗い励行、よく食べよく眠るなど体調維持に努めてください。大学として、応援しています。

自宅にて一人で勉強するだけでなく、外で勉強したり、友人と一緒に勉強したり工夫もしてください。勉強したキャンパスだけでなく、なかもずキャンパスの図書館、I-site なんば、さらには大阪市大の杉本キャンパスの図書館なども活用すると思います（利用できる時間帯は Web などで調べてください）。

昨日東京同窓会に出席していた OB が言われていました。「もう〇〇日しかない」と考えるのではなく、「まだ〇〇日ある」と考えましょう。ものは考えよう、想いようです。（下記日程は、Web から調べたもので誤りはないと思いますが、念のため受験生は注意してください）

看護学類関係 看護師 2月18日、保健師 2月16日、助産師 2月15日

総合リハ関係 作業療法士 2月25日、26日、理学療法士 2月25日、26日

管理栄養士 3月4日

獣医学類関係 獣医師 2月14日、15日

## 2月6日 教育活動

ある国立大学の教育活動について次のような宣言がなされている。

- ・本学に入学した学生の多様な思いを深く理解します。
- ・学生それぞれの個性に応じたキャリアパスをともに考え、教育を推進します。

普通に考えれば、教員として当然のことに思えるが、本学の一部の教員の行動を見てみると、（残念ながら）このことを言い続けなければならない。理解していない教員がいれば、お互いに指摘しあうような大学でありたい。

多様性を尊重する本学には、ある専門分野に絞って調査・研究することに時間を使いたい学生だけでなく、複数分野を学ぶための時間、ボランティアや体育・文化活動など課外活動の時間、視野を広げるために海外に出る時間、学資のためにバイトの時間が欲しい学生もいる。このことを教員は理解しよう。

本学の大学院に進学を希望する学生だけでなく、他学に進学したり、早く就職したり、進路を変更したり、休学（ギャップ・イヤー）したりすることを考える学生も多数いる。悩んでいる学生がいれば、よく相談にのり、学生の個性を尊重しよう。

先に紹介した宣言の3項目には次の記載がある。教員の個人活動としてだけでなく、各学類、課程で組織的にも取り組まなければならない。

- ・授業改善と学生の自立支援に取り組み、自己研鑽と自己変革を続けます。



## 2月7日 台湾東部で被災された方にお見舞い申し上げます。

台湾の花蓮市周辺で大地震が起り、死者を含む被害があったと報道されている。そこには、本校と交流協定を締結している東華大学があり、私も昨年訪問し、お世話になった。

訪問時にお世話になった先生にはお見舞いもメールを送ったところ、停電や断水があるが、先生も大学もご無事だったとの返信を頂いた。被災地にお住いの皆様のご無事と一日も早い復興を心より願っている。

## 2月8日 東京同窓会

2月4日、信濃町近くの明治記念館で東京同窓会があり出席した。OGで芥川賞作家の柴崎友香様にご講演を頂いたのち、懇親会で多くの方と懇談した。

会には首都大学東京の上野学長ほか、同窓会関係者にもご参加いただいた。なんと、(本学の体育会の皆さんならご存知の) 首都大の体育会長として活躍していた吉田君も参加してくれていた。今年の4月から大阪勤務ということだ。大阪府と堺市の東京事務所の方からは大阪万博招致、百舌鳥古市古墳群のユネスト登録に向けた活動をご紹介頂いた。

府大にはいろいろな同窓会があるが、その代表の方も多く参加されていた。同窓会のネットワークがつながる **Greater OPU Network** になっている。

若い参加者には、なんとなく起業家が多いような気がした。人脈作りが彼らのプラットフォームになるのだろう。そういう場を大学と一緒に構築できればと思う。



## 2月9日 万博

2025年に大阪に万博を誘致することを目指している。大阪市立大学の荒川先生とも相談して、大阪の全大学の学生さんと一緒にこの機運を(リレー形式で)盛り上げようと考えている。本学では、少し先になるが、6月に松井知事に大学に来ていただいて講演していただく予定だ。

東京オリンピック・パラリンピックでは、首都大学東京の学生さんが多くボランティア活動することで準備に入っているという。「府大生もどうか」というお誘いの声を頂いている。今、各地で市民マラソンが開催されているがボランティアの活動に支えられている。万博開催が決まれば、多くの学生さんの支援をお願いすることになるだろう。

万博では、SDGs (Sustainable Development Goals) が話題になる。持続ある世界にするための17の目標が設定されている。関西ではこれを推進するプラットフォームも設立された。

もちろん、万博に反対する意見や冷やかな意見もある。イベントを通して、いろいろなことを考え、議論する府大生であってほしい。



2月10日 韓国の全州大学が来訪

安保元理事のご紹介で韓国の私立大学のイ・ホイン総長らの訪問を受けた。英語ではなく、日本語で挨拶ということだったが、少し調べて、最初と最後だけは、韓国語で挨拶した。ネイティブにチェックしていただいたわけではないので、おかしかったかもしれないが、歓迎を表そうとしている意図を理解していただき、拍手頂いた。

ヨロブン、アンニョンハセヨ。オオサカフリツダイガクエ オシン コスル ファンヨン ハムニダ。マンナソ パンガッサムニダ。

翌日に開会式を控えた平昌五輪のお慶びを述べ、大阪の紹介として、百舌鳥古市古墳群が国の世界遺産推薦を得て可能性が出ていること、2025年万博への期待を述べ、いつものように、認証評価の結果として研究活動、地域貢献活動で高く評価されていること、人事課による大学イメージランキングで社会からも評価されていることを誇った。

韓国でも少子高齢化が進み、大学の数が将来半減するという危機意識があるそうだ。府大での初年次での幅広い学び、教員の異分野連携策、財務構成などの質問を受けた。

最後に、「今後、いい交流ができることを願っている。次回、4月に来ていただければサクラが美しい。クッカジ キョンチョンへ、ジュショソ カムサハムニダ」で締めくくった。



2月11日 地(知)の拠点整備事業COCのフォーラムに参加して

COCとは、文科省のプログラムで平成25年度大阪市大と共同申請し採択された事業だ。学士課程の教育プログラムとして、副専攻「地域再生(CR: Community Regeneration)」として実施している。今年度の第二回のフォーラムが7日にあり、参加した。

採択時に、文科省の方から「このプログラムは地域を専門にする個人の研究を支援するものではない。大学全体で、学生の教育を支援するものだ」と強く指摘されたことを覚えている。ここに教員サイドからは、コンフリクトがある。「大学の教育は自分の研究分野を学生レベルにあわせて教育するものだ。多くの教員は地域を専門に研究していないのに教えることは困難」という声だ。

また、これまでの教育は、「座学」で一般的なことを学び、「演習」で事例的なことを学ぶ。これに対して、この副専攻では、まず「実践演習」で事例を学び、その後、「座学」でいくつかの科目を履修し、再度、「活動演習」で事例を学ぶ。これも新しい学習スタイルで、従来の学問体系に沿ったものとは全く異なるカリキュラムとしてのチャレンジ(それとともに)完成度が求められる。

フォーラムでは、先生方の取り組みの視点、工夫、新たな知見が発表されるとともに、パネル討論で意見交換がなされた。「多様」「融合」を大切な視点としている本学の理念から、この事業を考えるよい機会となった。発表者、討論者、参加者に感謝する。





ちなみに、私は子供の頃から魚類の捕獲（ふな釣りに始まり今はキス釣り）・飼育（ピーク時は水槽を20個以上保有）・食事が大好きだが、診察や治療に携わったことはない。激流を登る魚の姿に感動し、研究室の年報のタイトルは「魚心」、ペンネームは「武庫野魚心」を名乗っている。

2月14日 今昔比較（A6棟付近）

上は本日、下は2003年に撮影したもの。いちよう筋の道幅の違いが一目瞭然だ。たまたま別の目的で、古い写真を探して下が目にとまり、昼休みに上を撮影した。

2003年当時は、車道と歩道が分かれていたのだろう。エレベータの設置もされていない。当時から自転車は多かったのだろう。A8棟が撤去される前の様子もうかがえる。

先日、「ご近所の哲学」というお話が面白かった。古い写真を見て、今昔の違いを考える。人というものを考え、生活を考え、人生を考える。図書館に隣接するヒストリアに行くと府大の昔（歴史）を学ぶことができる。

本日の写真はそこまでの深みがあるかどうか疑問ではあるが、記録を残すこと、記録から学ぼうとする姿勢を大切にすることについては、今後も留意したい。



2月15日 ～大阪検定1級合格者が、大阪の新たな観光魅力を提案～

大阪会議所と提携し、大阪検定1級合格者の中から希望される方を対象に選考を行い、本学の大阪検定客員研究員として称号付与する制度がある。今年度は、12名が橋爪教授の指導を受けながら、「大阪の観光および観光産業」に資する研究を行った。

その発表会を3月17日（土）大阪歴史博物館で企画した。例年参加して発表を聞くがなかなか面白い研究が多い。

今後の高等教育の将来像の提示に向けた論点整理  
平成29年12月28日  
中央教育審議会大学分科会将来構想部会

- 社会全体の構造の変化**
- ・学術研究や教育の発展 → 学際的・学融合的な研究、分野横断的な教育
  - ・第4次産業革命 → 「AI×OO」分野を超えた「専門性・技能の組み合わせ」
  - ・Society 5.0
  - ・人生100年社会 → 多様な年齢層の学生
  - ・グローバル化 → 多様な国籍の教員、学生
  - ・地方創生 → 地方の産業の生産性向上、高付加価値化

- 高等教育における人材育成**
- 18歳で入学する伝統的な学生
  - ・急速な社会の変化の中で陳腐化しない「普遍的なスキル・リテラシー」  
→ 一般教育・共通教育と専門教育を通じた「汎用的能力の育成」  
→ 学びとなる「専門分野と幅広い視野」を兼ね備えた人材の育成
  - ・第4次産業革命時代の「新たなリテラシー」  
→ 教理・データサイエンス
  - 社会人
  - ・学術的な背景を持つ教員による「最先端の実践の理論化」
  - ・実務経験のある教員による「最先端の実践例の提供」

2月16日 人生100年時代構想会議

国にこの会議があり、文部科学大臣提出資料を参考までに示す。出典は、「今後の高等教育の将来像について（2月8日）」

2040年（18歳人口は約88万人）を見据えた将来構想について、検討を行うという。5月下旬をめどに中間まとめ、秋ごろをめどに答申がまとめられる。本学の教職員にはぜひこのあたりの議論を行い、意見や展望をもってほしい。特に2040年に大学にいる若手には大切なことだと思う。

将来必要とされる高等教育機関の教育体制

- ・将来の人材需要は次々と変わり得る → 予測困難な中で、変化に迅速かつ柔軟に対応できる教育研究システムの構築
- ・社会の変化に共通するキーワードは「多様性」 → 多様な価値観が集まるキャンパスから新たな価値を創造  
→ 自前主義から脱却し、学部を超え、大学を超えて多様な人的資源を活用  
→ それを少子高齢化の中で実現

- 多様な教育研究分野 [迅速かつ柔軟なプログラム編成] [多様性 × 少子化 = 連携・統合]
- ・学部等の組織の枠を超えた「学位プログラム」の編成を可能に
  - ・大学の連携・統合の「方策」を構築 [円滑な撤退の「手続き」を明確化]

- 多様な教員 [多様性 = 学外資源の活用(脱自前主義)]
- ・学部等の組織の枠を超えた学位プログラムの編成を可能に(再掲)
  - ・実務家・ヤブ手・女性の積極的な登用

- 多様な学生 [多様性 × 高齢化 = 多様な年齢層の学びの場]
- ・社会人 → リカレント教育の推進
  - ・外国人 → 留学生を引き付ける環境整備

- 多様性を受け止めるガバナンス [多様性 = 学外資源の活用]
- ・他大学・産業界・地方公共団体との恒常的な連携体制の構築
  - ・学外理事等の積極的な登用

2月17日 5月に広州で日中大学フェア&フォーラム

JSTに声をかけて頂いて、次のフェア&フォーラムに出席することにした。府大からは高専も含め5名で参加する予定だ。

二つのテーマのどちらかで登壇することを求められ、Bで話をする予定だ。発表は日本語でいいという。 A. ナンバーワンを目指す学科構築について

B. オンリーワンを目指す大学の経営理念について

「多様」「融合」「国際」という三つの視点を大切にしたい。「高度研究型大学—世界に翔く地域の信頼拠点」として発表を準備しようと思う。以前は毎年のように中国を訪問していたが久しぶりのことになる。

広州の近くの深圳（新幹線で30分程度）には、石渕教授が南方科技大に3年間の予定で滞在して研究している。折角の機会なので、広州から日帰りで訪問して、同大学との交流について協定を締結すべく準備を進めたい。

2月18日 今後の主な予定

年度末を控え、式辞の準備をしなければならない時期になった。何をどのように話すかを考えるのは苦しくもあり楽しい。暖かくなるとともにそういう時期が来る。

2月19日 国立ラオス大学来訪（さくらサイエンスプランで）

25日 前期入学試験

3月 4日 オープンカレッジ卒業式@学生会館

7日 高専会議・懇親会 8日 中期入学試験

9日 バイオ関連国際学会 閉会の辞・懇親会

10日 校友会総会@I-site なんば

12日 後期入学試験

14日 名誉教授授与式 ‘I-wing なかもず

15日 九工大経営協議会@戸畑

16日 高専卒業式、大阪電通大訪問、  
南大阪大学コンソーシアム理事会・総会

17日 大阪検定客員研究員成果報告会



2月19日 学生FDスタッフの活動

15日（木）学生FDスタッフの3人の学生が活動を紹介しにきてくれた。活動は6年目に入っていて、10名弱の学生が活動しているという。大きく三つの活動があり、

(1) しゃべり場・・・学生が充実した学生生活を送ることについて意見交換する

(2) 学生課程相談会・・・研究室見学を設定したり、配属済の先輩の話を聞いて、  
進路の相談をする。機械系学類と応用生命科学学類で実施。

(3) 学生FDサミット・・・全国のFDに関心をもつ学生と意見交換する。

(500名近い学生、教職員が集まる)

これらの活動は SNS でも発信しているので、一度参照されたい。こういう活動の意見を吸い上げて、教育改善を継続することが大切だ。

彼らが訪問してくれる直前になって、2005年に情報工学科・経営工学科（当時）が、教員、大学院生、研究室配属前の学生で FD シンポジウムをしたことを思い出した。当時の写真（2枚目以降の4枚）もあったがひも解くと、85名も参加して次の活動をしていた。自由記述のアンケート結果も残っていて、こういう活動は各学類等でもやってほしいと思う。

「学生にとってよい授業とは何か：本音で語ろう教室現場」

第1部 講演 16:30-17:10

- 1. 海洋が試みてきたこと 奥野先生
- 2. Web に見る他大学の事例 黄瀬先生

第2部 パネルディスカッション 17:20-18:20

- 3. パネル 司会：黄瀬先生
  - 教員代表：石渕先生 5分
  - 高校代表：藤先生 5分
  - 企業内教育：辻先生 5分
  - 教育実習経験から：大学院生代表 5分
  - 自治会代表：学部生代表 2名 10分

第3部 海外事情報告 18:30-19:00

- 4. オーストラリアにみる事例 森先生

第4部 懇親会



2月20日

良くできていて、楽しい。全員で広報。多くの受験生に届けばいいな。

2月21日 地域の見守り活動で感謝状（14日）

豊中警察署から「教育福祉学類の学生2名に感謝状を出す」と連絡がはいった。聞くと久保田怜

さんと樫本実夏さんが、連携して事件になりかねない事案を未然に防いだという。

感謝状を学長室で見せてもらった。久保田さんは昨年の入学式（利晶の杜で見た地図の話をした）

で手話通訳を担当してもらっており、そのときにも話を聞いている。

今年4月は樫本さんが担当してくれるという。ともにアクセスアシスタント（障がい学生支援者）としても活躍している。「府大で学んだ連携の力」を大切にしたいとメッセージを書いてくれた。学生のことを誇りに思える一瞬だった。



2月22日 インドネシアからの元留学生からの便り

先日、2000年前後に留学していたお二人からメールをいただいたと書いた。その後、さらにもう一人からも頂いた。

Diana Widiastuti さんから学会で講演することを招待された件は、**Why should we study basic algorithm for solving practical problems? - Three cases from our experience -** というタイトルで話すことにした。今回、リーフレットができ、Web ページもオープンしたと連絡を受けた。

あらたに連絡を頂いたのは、Suyoto Rais さん。いくつかの日本企業の勤務経験をもとに日本インドネシアビジネス交流会の設立に尽力されている。一昨年、「25年間の日本滞在日誌」を「Seindah Sakura Di Langit Nusantara (インドネシアの青空に輝いた桜のように)」というタイトルで出版されている。彼も私が8月にインドネシア訪問するときにご家族で会いに来てくれるそうだ。

以前にも書いたが、インターネットの構成のように府大関係者の小さなネットワークをつないで大きなネットワーク **Greater OPU Network** を作っていきたい。



2月23日 関西経済論 受講者募集

4月19日～7月19日にわたって、ほぼ毎木曜日に開講する公開講座「関西経済論」の講師と演題が確定し、募集を始めた。今回は、松井知事にも「2025年万博を大阪・関西へ」というタイトルで講演頂ける。

この講座があるときには、キャンパスの人口が1,000人増え、平均年齢が10歳高くなる。講座を聴講するだけでなく、図書館や食堂を利用して頂いたり、キャンパスの内外を散策する方も多い。参加者は、堺市内だけでなく、豊中市や茨木市などからも来ていただいております。チラシは、自治体や沿線の駅でも配布をお願いした。少しでも多くの方に大阪府立大学の活動を知ってほしい。



## 2月24日 大阪市会の議決

昨日(2月23日)、本学と大阪市立大学の法人統合の議決が大阪市会であり、可決となった。それを受けて次のメッセージを大学HPに出した。新聞などでも両大学長のコメントとともに、すでに報道されているが、近日中に改めて、荒川哲男大阪市立大学学長と記者会見を行う予定だ。

これまでもいろいろな場で、統合の動きについて説明してきたが、改めて学内の教職員、学生、さらには保護者の方々、卒業生の方々にも説明していく。

-----  
大阪府、大阪市において、2019年4月に法人統合を行うことをめざして2大学1高専を運営する公立大学法人大阪府立大学と公立大学法人大阪市立大学の新設合併に関する議案等がそれぞれの議会に提出され、大阪府議会において11月8日に、大阪市会において2月23日に可決されました。

今回の議決は、新設される法人において、大阪府立大学と大阪市立大学の両大学を運営していくものであり、新大学設置への1ステップであると考えています。今後とも大阪府・大阪市とも連携を密に準備を進めてまいります。

これまで統合の議論をきっかけに両大学で様々な教育プログラム等の連携を進めてきております。今後も教職員や在学生のみならず、卒業生など多くのステークホルダーのご意見も参考にしつつ、これまで培ってきた両大学の伝統を大切にしながら、魅力ある新大学の実現につなげてまいります。

なお、法人を統合した後も、大阪府立大学と大阪市立大学は存続しますので、在学生の学生生活に影響はありません。入試については現行通り大阪府立大学として実施していきます。また、大阪府立大学に入学された方が卒業する大学は大阪府立大学であり、授与される学位についても影響を受けることはありません。

## 2月25日 海外派遣プログラムの状況

学生さんが海外に出かけることを支援するためのプログラムを充実してきたので、今年度の学生派遣が増えているかどうか気になっている。2月20日時点の状況は次だということだ。

- |                         |                   |
|-------------------------|-------------------|
| (1) 夏季・春季語学研修、短期プログラム   | 昨年度の52件から72件に増加。  |
| (2) 研究科・学域ごとの実施プログラム    | 昨年度の98件から124件に増加。 |
| (3) 上記に加え、その他をすべて入れた派遣数 | 昨年度の174件から216件    |

本学の場合、大学院生が国際学会で発表するために渡航することが多い。渡航時には、緊急時の対策がとれるようにJCSOSに登録するようにしており、その登録数で言うと、昨年度の180件から209件に増加している。また、学会発表時に、本学との交流協定校を訪問し、交流してくれば渡航費の一部を支援するプログラムを新規に作ったが、209件中、44件がこのプログラムを利用している。

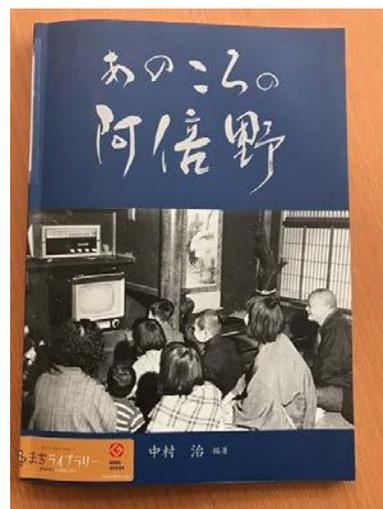
さらに派遣内容が充実するように、海外に滞在する府大OB、府大留学生OBのネットワークを構築するとともに、派遣数が増えるように、プログラムを利用した学生さんには後輩への記録を残したり報告会での発表をお願いしている。

## 2月26日 古写真を見て現代社会を考える

先日、中村治先生から、先生が編著の「あのころの阿倍野」を頂いた。古写真をもとに、かつての風景、暮らしぶり、人とのつながりが写真と説明文で分かる。暮らしの変化によって得たもの、失ったものを見つめ、現代社会を考えるように意図されている。

表紙は、テレビのある家庭に近所の子供たちが集まり、一緒に見ているものだ。私の子供の頃、自宅にはテレビがなく、同じように見えていた。電話も自宅にはなく、近所に借りに行っていた。そのほかにも懐かしい写真が満載で、あわせて、技術の進歩を振り返る機会を頂いた。いろいろ感じるところもあり、今年の学位記授与式の式辞にも入れようかと思う。

この本は、私の部屋の隣の応接室に設置している「辻待ち来ブラリ」（私との打合せに早く到着したときの待ち時間に見て頂くライブラリで、府大関係者の著作の寄贈でできている＝東野圭吾さんの著作も多いです）に入れたので、関心があればぜひ手にとって頂きたい。



## 2月27日 トビタテ！留学 JAPAN 第8期採用学生と

文科省が 長期の留学を支援するプログラムを 用意して、今回、本学の学生も 二人が 採用になった。その報告と留学への意気込みを話に学長室に 来てくれた。一人は、工学域 機械系学類で 航空宇宙を学ぶ塩川君、もう一人は工学研究科 知能情報工学分野で研究をしている藤野さん。

塩川君は、米国 オレゴン州立大学で 9月から 来年の3月まで講義の受講に集中するという。テーマは「空を飛ぶことがもっと身近な社会を目指して！～グローバルな空のピオニアへの第一歩」。私は 行ったことがないが、綺麗で安全でいい街であるとともに かなり田舎のようだ。

藤野さんは、昨年度 サイエンスインカレで 文部科学大臣賞を受賞している。スペインのサラマンカ大学で、7月から12月まで研究に没頭するようだ。電車好きということを知っていたので、それが理由でスペインにしたのではないかと聞いたが、そんな理由ではなく、Sara Rodrigues 先生の研究室で「気持ちを理解する人工知能！？アニメを通してコンピュータと人間が共存する社会作り！」というテーマで 成果をあげたいという。

## 2月28日 帝国データバンク：大学発ベンチャー企業実態

先日、上記のタイトルのレポートが発表された。これによると、府大は 11社で 20位に入っている。公立大学では 2



位。全国では、1000 社を超え、10 分の 1 が東大発、情報・ヘルスケアのサービス業が 5 割、黒字になる平均年数は 5 年強ということが報告されている。私の手元の数字では、本学発のベンチャー企業の数はいくらか多いのだが、今回の調査では、以下の要件のいずれかに準ずる企業だけとされているようだ。

1. 大学で達成された研究成果に基づく特許や新技術・ビジネス手法を事業化する目的で新規に設立された企業
2. 創業者の持つ技術やノウハウを事業化するために、設立 5 年以内に大学と共同開発等を行った企業
3. 既存事業を維持・発展させるため、設立 5 年以内に大学から技術移転等を受けた企業
4. 大学教授や教員・生徒による起業、その他大学と深く関連のある企業

### 3月1日 大阪市立大学の荒川学長と記者会見



先日の大阪市会での法人統合の議決を受けて会見を行った。テレビ局、新聞社など多数の方に来ていただいた。

既に数社の Web サイトには掲載されていて、それも見る限りでは、概ね好意的に取材していただいております。ほっとしている。こういう場で話す機会はあまりないので、丁寧に話をしたつもりではあるが、うまく記者の方に伝わる話ができただろうか、今になれば反省もある。



広報課、新法人設立準備室はじめ、準備いただいた両大学の関係者(ネクタイの色のアドバイス含め)に感謝しています。



### 3月2日 特別栄誉教授の称号付与

ドイツのカイザウラウテルン大学の Andreas DENGEL 教授には、本学と 20 年以上交流して頂き、教員・学生を派遣しているだけでなく、先方の教員・学生を受け入れている。また、客員研究員として外部資金獲得のアドバイスを頂いていて、先進研究の講演を頻繁に行っていた。今回、学内の会議で審議して、特別栄誉教授の称号を授与することに決定した。3月14日の午後授与式を開催する予定で、あわせて記念講演もしていただく。

ちなみにこれまで4名の方に授与しており、デンゲル先生で5人目。ほぼ7年ぶりの授与となる。

**Prof Sir John Meurig Thomas** (イギリス・元イギリス王立研究所長)

授与日：平成 18 年 6 月 6 日

**Terry King** (アメリカ・Ball state university 学長・教授)

授与日：平成 19 年 11 月 28 日

**Ezio Pelizzetti** (イタリア・トリノ大学長)

授与日：平成 21 年 11 月 4 日

**Michel CHE** (フランス・ピエール・マリー・キュリー特別教授)

授与日：平成 22 年 12 月 13 日

### 3月3日 内部質保証

大学の教育で「質の保証」をどうやっていくかが課題になっている。もともと経営工学科の教員だったし、そもそもメーカーの社員だったので、製品の品質そして品質管理には関心がある。日本の会社は品質管理で世界より優位にたったが、日本の大学は教育の質保証で海外を参考にしようとしている。ちょっと残念だ。関係者には笑われたが、これと対比して、内部質保証の理解を深めるのも面白い気がする。例えば、

- (1) 製品と卒業生、(2) 材料と入学生、(3) 製作工程とカリキュラム
- (4) 製作機械と教員、(5) 製品検査と定期試験、(6) 保証書と卒業証書
- (7) 工程管理と履修状況チェック

「ちっと違うかな?」。こんなことを考えながら休日の釣りを楽しんでいたら、全然釣れなかった。

### 3月4日 自己紹介

卒業を控えた学生さんや研究室配属・ゼミ配属を目前にした学生さんへの話だけではない。我々は、いろいろな場で自己紹介をする機会がある。いろいろな方の自己紹介を聞いていると型通りの名前と所属だけをいう方もおられれば、印象に残ることを話されることもある。自己紹介が今後の会話の足掛かりになると思うと型通りですまさないほうが多い。

自己紹介次第で場の雰囲気がかわることもある。緊張している場では少しなごます工夫があるといいと思う。笑いをさそうこともいいように思う。自己紹介は最初の人型の型が決めてしまうことがあるかもしれないが、そこは工夫してはどうだろうか。

自己紹介をリードする立場の工夫次第だ。私が研究室を持っていたころは、好きな四文字熟語を二つ書いてもらってその説明をしてもらった。あとで、「一つが人生観、もう一つが恋愛観を示すらしいですよ」というと場が和んだことを今でも覚えている。

### 3月5日 オプカレ卒業式

早いもので2年経った。一昨年に入学した21名全員が卒業まで頑張って、3月4日(日)にサイエンスホールで卒業式を迎えた。ご家族やサポーターも参加するなか、音楽、英語、美術、福祉をテーマにしたゼミ発表もあった。白鷺祭に参加したり、和歌山に一泊旅行したりもしたそうだ。



私にも祝辞を述べる機会を頂いたので、(1) 今後も目標をもって、それを達成するという努力を続けてください、(2) 社会において、お互いに影響を与え、影響を受ける関係であることを自覚してください、(3) 府立大学は母校になるので、花まつり、友好祭、白鷺祭などに顔を出してください、と話をした。そういえば、入学式には次のような話をしていた。

-----2年前の6月の入学式直後の投稿-----

18日(土)、入学式があり、招待してもらったので参加した。保護者の方の見守られる中、21名の方があらたに「オプカレ」に入学。サポーターの学生さんたちも前日までかなりの準備をしていたのではないだろうか。

私はあいさつの中で(入学生に対してだけでなくサポーターに対しても)二つの問いかけをした。

(1) 昨日と今日で、皆さんは出来ることに違いがありますか？

本日と明日で出来ることに違いはありますか？

(2) 食事をするときにおいしい好きなものから食べますか？

それとも嫌いなものから食べますか？

私は次のように考えています。

一日単位でみていると、出来ることに変わりはないかもしれませんが、少し長めに考えると（オプカレ場合、2年間）、必ず違いが出てきます。大切に時間を使って頑張ってください。

好きなものから食べる人は、必ず「今最高のものを食べている」と考え、嫌いなものから食べる人は、必ず「次はもっといいものを食べれる」と考えてください。くれぐれも「次は今より悪くなる」とか「今最悪だ」と考えないでください。同じことをしていても考え方次第です。

-----

入学生もサポータも府大でいい学びをしてほしいと願っていますし、いい学びができると確信しています。

3月6日 4月7日は府大花（さくら）まつり

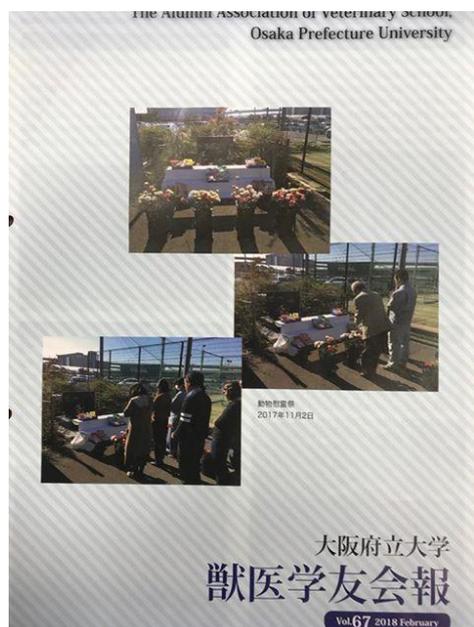
中百舌鳥キャンパスで今年も開催する。第9回になる。小雨決行。教職員・学生だけでなく、地域の方にも多く参加いただきたい。もちろん、新入生やご家族の方も大歓迎だ。卒業生にも来てほしい。

高校生・受験生向けのコーナーも用意する。お弁当販売、食堂も営業。近隣店舗による屋台も出る。授乳室、オムツ交換スペースもある。全員広報で盛り上げてほしい。

3月7日 獣医学友会報

同窓会報を頂いた。第67巻とある。表紙は動物慰霊祭の様子の写真。そういえば、2回あったりんくうキャンパスの訪問がいろいろな都合でキャンセルになり、今年度は失礼してしまっている。

会報にはオレゴン州立大学への留学に関する報告会の記事があった。先にも書いたように、今年留学を予定している学生がいるし、マテリアル関係で府大OBの教員が勤務しているし、何か身近に感じて興味深く読ませてもらった。



### 3月8日 白鳥会報誌

看護学系同窓会の会報誌を頂いた。Vol.18 とある。最初に長畑多代教授（老年看護学分野）の「府大看護の強みとは」の記事があり、専門看護師の養成の実績と実力、地域包括ケアシステムの重要性とキープロジェクトとしての先駆的な取り組みが述べられている。1994年には全国で40校に満たなかった看護系大学が今では255大学になっているそうだ。



白鳥会は創設20周年となり、9月1日（土）ホテルグランピア大阪で総会がある。特別講演は清水健氏。私は当日の朝帰国予定のため少し遅参するかもしれないがお祝いを述べに伺う予定だ。

### 3月9日 獣医師国家試験の結果

本日、農林水産省から獣医師国家試験の結果が発表された。本学の合格率は97.8%（昨年88.9%）。全国平均が88.3%。関係者のご尽力に経緯を表す。



獣医に関して、未知(MICHI)なことを知れば(TAKE)、MICHITAKEを見て、「満ちていく」ように！！

### 3月10日 9日は前期日程の合格者発表

大学には入試室という組織があって、入試に関するあらゆることを行っている。最近の入試の種類も多くいつも忙しくしている。ミスは許されないので常に緊張して仕事をしている。

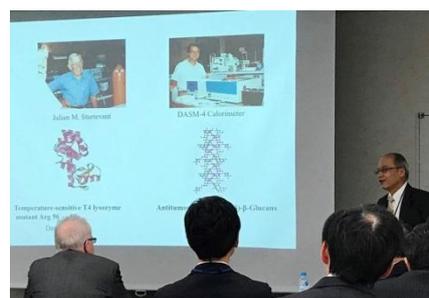


合格者発表のときも同じだ。たまたま会議にでかける時間帯が合格発表のときだったので写真を撮らせてもらった。職員が合格者を掲示すると喜びの声があがる。体育会の学生がともに喜び、早速勧誘のアプローチも。寒い風が吹いていたが、春は確実に近づいている。

### 3月11日 ”Workshop on interdisciplinary approaches on carbohydrate bioengineering”

学内で毎月のように国際シンポジウムが開催されるようになってきている。9日（金）には、生命環境科学研究科の北村先生、阪本先生、鈴木先生、理学系研究科の原先生らがオーガナイズされている府大協賛のワークショップで閉会の挨拶と懇親会に招かれた。

大学院の学生さんらもスタッフとして手伝ったり、勉強していたりしていい感じだ。懇親会では、国内外のいろいろな方とお話する機会も得た。専門の話は分からないが、研究のネットワーク作りはどの分野においても同じように大切。



先輩方のご寄付でできたなんばのサテライトオフィス。教育研究を活性化するためにも、学内での国際会議を支援したり、継続してご寄付をお願いしたりする活動をしようと思う。

### 3月12日 2017年度 IRIS 活動報告会

多くの方に知っていただきたい理系女子大学院生の活動。新たに入学される方にも応募を考えてほしい。メンバーになって活動すれば、研究室に籠って実験などだけをするのではなく、いろいろな方と研究だけでなく人生や就職などについて相談できるはずだ。在学中だけでなく、世界に翔いた修了後もできるはずだしそういう例も聞いている。迷っているなら報告会を聞いてはどうだろうか？



### 3月13日 11月4日（日）第9回ホームカミングデー

かなり先のことになるが、創基 135 年を記念して、今年は記念講演付きのホームカミングデーを行うべく検討をスタートした。5年前の創基 130 年の時には、日産自動車の志賀俊之氏の講演をおこなっていただき、能の公演も企画したところ、1170 名の参加があった。

ちなみに昨年は 240 名。ウェルカムパーティの会場として体育館を使わず、生協食堂にしたこともあり、少なくなったのだろう。まだ、時間があるので、いろいろな方のご提案を頂きながら、準備を進めるよう相談していく

### 3月14日 チームプレー

少し前の話になるが、冬季オリンピックのパシュートを見ていた。四人が一つのチームでそこから三人が出場し、交代で先頭を走る。一人だけが速く走っても勝てない。なかなか面白い。

同じチームプレーでも、役割の違う球技とも違うし、体操の団体なども違うチームの連携の大切さを感じた。同じようなものに何があるだろう・・・。同時通訳では二人の通訳が交互に行っている。訳語や表現のトーンを揃えないとわかりにくくなるので、うまく補い合っている。以前、知財の交渉で交代で前面に出て主張をしあうというのを聞いたこともある。中川先生が主催されている英語によるパラメンタリーディベート（話す順番で多少役割が違うかもしれない）にもそういう面があるように思う。

何か目の前に面白いものをみると、そこから連想というか比喩というか発想を拓げるのは楽しい。そこから日ごろ抱えている課題を解決できないものかといつも思っている。思考をめぐらすと、いつしか時間が経ってしまう。

### 3月15日 特別栄誉教授 Dengel 先生との会食

昨日、本学として 5 人目となる特別栄誉教授の称号をドイツのカイザウスラウテルン工科大学の教授でドイツ人工知能研究所 (DFKI) のリーダーである Andreas DENGEL 先生に授与した。その様子を写真は別途本学の HP などで紹介するが、一緒に会食した時の話題について紹介したい。

私からの問いは「欧米の研究者は、授業も研究発表も産学連携もすごくしているにもかかわらず、きっちりと一週間というレンジでバカンスをとる。一方、日本の大学の先生は、そうはならない。会議が多すぎるという声も聴くがなぜだろう」というもの。

「このためだろうか」「いやそうではないのでは」という話に花が咲いたが、一つは研究室をまたがってチャットするラウンジの欠如ではないかとい問題提起があった。確かに私の知る欧米の大学では、建物のどこのフロアにもラウンジがある。

### 3月16日 29年度版環境報告書

法人として6冊目になる報告書が発行された。国連サミットで採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」、第5期科学技術基本計画に示された「Society5.0」の取組とも連携して、法人全体の環境に関するデータを集め、公開することを今後も関係者の協力を得て続けていく。



### 3月17日 大阪検定客員研究員報告会

「なにわなんでも大阪検定」の一級合格者から選ばれた客員研究員が独自に大阪の研究して、大阪の歴史と文化を再評価しつつ、観光やまちづくりに生かそうとする活動があり、12名の方の発表があった。本学の観光産業戦略研究所の橋爪伸也所長が指導をされているものだ。

その一つにトロリーバスの話があった。私の子供のころには大阪駅周辺をいくつかの路線が走っていたが、1970年に廃止されたということだ。懐かしい。その架線柱が遺跡として残っており、その調査結果が面白かった。

万博誘致、百舌鳥・古市古墳群のユネスコ世界遺産登録など、大阪を活性化する動きの一環として今後も期待したい。



### 3月18日 今後の主な予定、

- 19日 IRIS（理系女子大学院生）第7期生 活動報告会  
平成29年度後期学長顕彰表彰式
- 20日 地域保健学域教授会&懇親会（@羽曳野）
- 22日 マネジメント学類関係国際学会開会の挨拶（@I-site なんば）  
キープロジェクト（地域包括ケア関連）報告会（@羽曳野）
- 23日 SiMS（リーディング大学院）第一期修了生 面談  
獣医学専攻拡大教授会（@りんくうキャンパス）
- 24日 学位記授与式、経済サテライト修了懇親会
- 26日 経営会議（@I-site なんば）
- 27日 新大学推進会議（@大阪市大）

3月19日 特別榮譽教授授与（3月14日）

長期にわたって、府大の教育・研究・社会貢献に寄与してくださった先生に特別榮譽教授の称号を渡す制度がある。今回、5人目としてドイツのカイザウスラウテルン大学の Andreas Dengel 教授に授与した。

セレモニー開催にあたっては、縁のある方に遠路お越しいただいたほか、多くのメッセージも届いたので、その場で紹介ができた。また、過去の記録が乏しかったので、多くの事務職員の方が精力的に準備し、称号授与証、授与理由書、授与基準含め、今後のひな型ともいべきものを確立してくれた。先生には今後も引き続きご指導いただくとともに本学の広報にもご支援頂くことにしている。

少し長くなるが、今回まとめた授与理由が次だ。

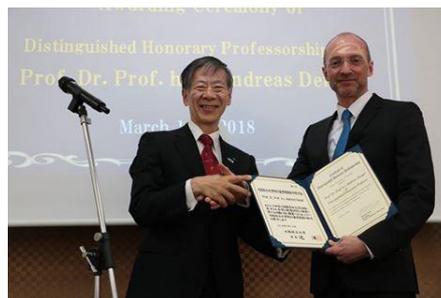
Prof. Dr. Prof. h.c. Andreas Dengel is Scientific Director at the German Research Center for Artificial Intelligence (DFKI GmbH) in Kaiserslautern where he leads the Smart Data & Knowledge Services Research Department. In 1993 he was appointed Professor at the Computer Science Department of the Technical University of Kaiserslautern (TU-KL) where he holds the chair of Knowledge-Based Systems.

The collaboration between Prof. Dr. Dengel and OPU began almost 20 years ago. Since 1997, he has hosted our faculty members three times for short and long-term research. He has also contributed to the promotion of student exchange between DFKI, TU-KL, and OPU. In the meantime, we have sent more than ten students to his laboratory at DFKI for internships and welcomed more than ten students from TU-KL as well. There is an OPU alumnus now working at DFKI as a researcher and continuing his research work in the Ph.D. course of TU-KL.

In 2008, Prof. Dr. Dengel co-founded the Institute for Document Analysis and Knowledge Science (IDAKS) at the OPU with Prof. Koichi Kise, Director of IDAKS.

In 2009, he was appointed Visiting Professor (Professor Kyakuin) at the Department of Computer Science and Intelligent Systems, Graduate School of Engineering at OPU. He has worked hard to promote our education and research, supporting the OPU Graduate Course for System-inspired Leaders in Material Sciences since 2013, co-organizing seven IDAKS workshops, being a member of four Joint Research Projects with us, and delivering fifteen lectures at OPU.

In summary, Prof. Dr. Dengel has contributed to OPU for more than 20 years, and he will continue to play a significant role in the research and education activities of the university.



For these reasons, Osaka Prefecture University is pleased to award a Distinguished Honorary Professorship to Prof. Dr. Prof. h.c. Andreas Dengel.

### 3月20日 大阪府立大学高専卒業式

16日小雨振る中、保護者の方、名誉教授の方らのご臨席の元、高専の卒業式・修了式があった。私も法人の理事長として招いていただき、祝辞を述べ、花束贈呈にも参加した。

証書授与の代表者が仮装をしていたり、各賞の代表者が呼ばれたときに全員で「はい」と返事したり、階段から落ちて見せたり、ユーモアとウィットにあふれたよい式だった。指導そして式の準備に当たられた教職員の方も思い出深いものになったのではないだろうか。

社会に出ると、向かい風にあうことも追い風にあうこともあるだろうが、高専で学んだことをもとに「人生の風」にどう対応するか考え学び続けてほしい。



### 3月21日 学生団体・個人顕彰表彰式

19日に今年度修了卒業する学生さんで、学術あるいは課外活動で著しい成績を残し、本学の名誉を高揚してくださった皆さんに顕彰を行った。おめでとうございます。今回は教員の方に加え、一部ご家族の方にも来ていただいた。活動を日頃から応援してくださっている方にも参加していただき一緒に喜んで頂けるのが願いだっただけに嬉しい。



最近、あちこちで話している「追い風、向かい風のいたずら」の話をして、「社会に翔いてから、人生の向かい風を感じた時にはしなやかにかわし、追い風が来るのをしたたかに待ってほしい」と話した。

### 3月22日 演台に三次元プリンタで校章

以前、ドイツの大学で演台にその大学の校章が描かれていた。その話を学内でしたところ、三次元プリンタで作ってはどうだろうという話になり、生産技術センターの方に相談したところ、写真の台ができた。どうだろう？

他にも学内にはいろいろなところに演台があるので、順次このようにしていただこうと思っている。全員で大学・高専の広報を。



### 3月23日 IRIS 活動報告会

40人が活動した一年の報告会があった。全部聞きたかったが、いろいろパラレルブッキングがあり、最初の挨拶だけで失礼した。挨拶では、

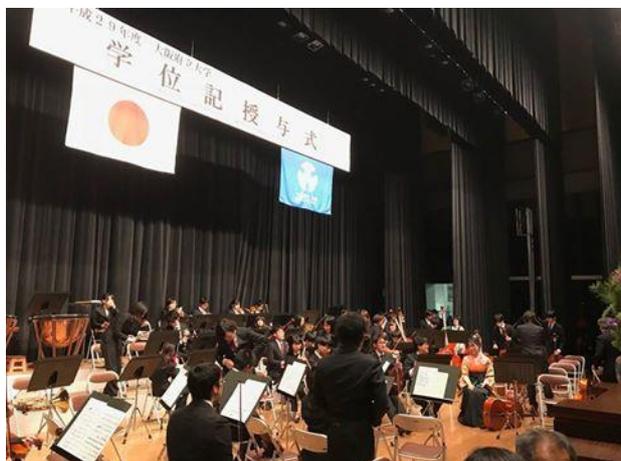
(1) 学力の三要素の力をつけることが求められている。知識は授業で、思考力・表現力はゼミ・卒論・修論で身につけてほしい。自主的に他者と協調して学ぶ力は、地域と連携する中で学んでほしい。

(2) 活動する中でメンバーで暗黙知を形成できる。活動を報告することは、学んだ知識を形式化することであり、報告会では形式知を結合できるいい機会だ。報告を聞くことで自分の新たな暗黙知を得ることができる。こういうことも考えてほしい。

(3) 23日のロールモデルカフェでは、カンボジアで活動している愛称ポコさんが話をしてくださる。私もカンボジアとの交流に力をいれており、時間がとればぜひ参加してはどうだろうか。ということ話を話した。



### 3月24日 学位記授与式(24日)



入学式は国際会議場で行うので、全学生が一度に入場できるが、学位記授与式は Max 1200人のUホール白鷺で行うので、三回に分けて行う。先ほど三度目が終わった。

天気がよく、桜も咲き始めていて、晴れやかに無事終了し、ほっとしているところだが、今から、経済学研究科の社会人の学位記授与式出席のため、I-site なんばに移動予定。その後懇親会に誘われているので、式辞などは後日その背景含め紹介しようと思っている。

3月25日 市松模様のバックボード

23日(金)にりんくうキャンパスを訪問した。今年度は2回の訪問予定をいずれも直前にキャンセルしてしまっていたので、初めてだった。一階には翌日の卒業式を前に市松模様のバックボードが用意されていた。思わずパチリ。

24日(土)なかもずキャンパスでの学位記授与式のあと、I-site なんばに行き、経済学研究科のサテライトオフィス(社会人大学院)の授与式に参加した。ここにもバックボードが用意され、懇親会場にもそれが運ばれた。思わずパチリ。

もちろん、Uホール前にもバックボードを設置していた。私も数枚写真を撮ってもらった。他の部局でも用意してもらっているはずだ。どれだけの学生さんがこのバックボードの前で写真を撮ってくれたらどうか。どれだけの人が市松模様に入った写真を見ただろうか。広報ツールの一つであるが、府大・高専全員広報をお願いしている。

3月26日 リーディングプログラム履修生学位記授与

大阪市立大学と一緒に実施しているシステム発想型物質科学リーダー養成学位プログラムの修了生が今年初めて出た。府大6名、市大1名の計7名。式では、代表だけに学位記を手渡すのではなく、全員に学位記を読み上げ直接お渡しした。彼らにはプログラムスタート時から会っているので、大きく成長して無事修了してくれたことが嬉しい。クセの強い学生ばかりだったと思う。ご指導いただいた関係教職員のご尽力にも深く感謝する(やりがいがあるが、一方で大変だったと思う)。

授与式の前日、都合のついた5人が報告に来てくれた。残念なことに所用が取り込んでいて、20分弱しか話を聞けなかったが、全員が海外留学・研究室ローテーションをし、4名は企業等での長期インターンシップを経験している。

自分が最初に渡航したのは33歳。その歳になるまで論文は投稿しても投稿しても不採択。振り返ってみると彼らの成長のすごさ・早さに感服する。5人は就職して、1人は学振特別研究員として就職先を探しながらもう少し大学で研究する。もう1人は韓国に渡りポスドクとして研究するという。



### 3月27日(1) 看護師国家試験 2018 府大は100%合格

この一年気にしていった国家試験の合格発表があった。府大は受験した127人全員が合格だった。昨年度の成績が(非常に)悪かっただけに、ほっとしている。大学の重要会議である経営会議の途中、メモで情報が入り、そこで紹介したら思わず拍手が出た。どれだけ多くの方が心配していたかが改めてわかる。

発表によると、今回の試験は、2月18日(日)に試験が行われ、出願者数65,070人、受験者数64,488人、合格者数58,682人となり、合格率は91.0%(昨年88.5%)。そのうち、新卒者の合格者数は55,764人、合格率は96.3%(昨年94.3%)ということだ。

合格した学生さんにお慶びを申し上げるとともに、ご指導いただいた教員、いろいろな面で支援してくれた職員に心から感謝する。この一年かなり指導を厳しくするようお願いし続けたので、嫌われてしまったかもしれないが、結果がすべてを赦してくれると思いたい。

### 3月27日(2) 理学療法士24名、作業療法士25名全員が合格

昨日の看護師の国家試験に続いて、総合リハビリテーション学類で学んだ学生さんの国家試験の合格発表があった。集計したところ、全員が合格していることが確認できたという。昨年に続き嬉しい知らせだ。

合格した学生、ご家族にはもちろん、ご指導いただいた先生方、ご支援いただいた職員方にもお祝いと感謝を申し上げたい。おめでとうございます。そして、ありがとうございます。

### 3月28日 Doing Business in the Global Economy

3月22日、経済学研究科の辻峰男先生のお世話によって、本学で国際研究集会が開催された。 Guam大学の方が長年行ってきたものを今年は大阪で開催することになったという。

私も近藤経済学研究科長、杉村マネジメント学類長とともに開会セレモニーによんでいただったので、大阪や本学の紹介を行った。百舌鳥古市古墳群の世界遺産登録や万博誘致の話、まちライブラリーの紹介など行ったところ、府大に対して立派な感謝盾を頂いた。経済学研究科の大学院生やマネジメント学類の学部生も発表を行っていた。また、会場の準備など多くの学生が手伝っていた。こういう場で学ぶことは多いだろう。

2018年度の一つの夢。毎月一度は国際集会を学内で開催すること！地道に国際交流の活性化を図っていきたい。



3月29日 キーププロジェクト報告会@羽曳野キャンパス(23日)

将来府大の顔の研究となることを期待して、4つの研究チームを2016年にキーププロジェクトとして認定している。今回、その一つの今年度の成果報告会があった。「NS-Co プロジェクト—地域包括ケアシステムを支える人材育成とネットワーク形成によるシナジーモデルの構築」



人材育成の話題では、「何ができるべきかに対して、どこまでできているかの **Capability**」の議論があって、ソフトウェア関連の組織の能力に関する議論 CMM とも関連しそうでなかなか面白かった。個人的なきょうみになってしまうが、AI との関連についても思考が頭の中を駆け巡った。厚労省の HP には次のように記されている。

団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現していきます。

今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。

人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、高齢化の進展状況には大きな地域差が生じています。地域包括ケアシステムは、保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていく必要があります。

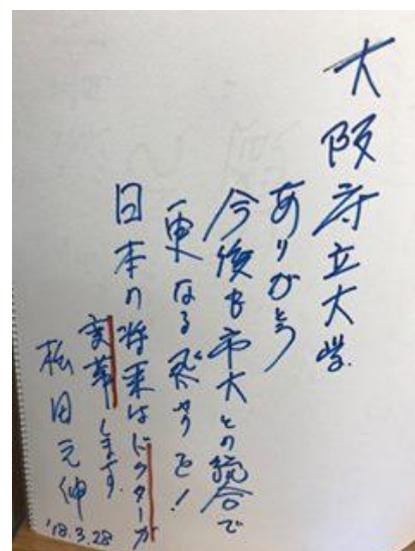
3月30日 管理栄養士の国家試験に30名全員が合格

本日も嬉しいニュースが飛び込んできた。総合リハビリテーション学類の栄養療法学専攻の学生が管理栄養士の国家試験を受験していた。全国合格率は60.8%（新卒は95.8%）のところを本学は100%という速報だ。受験していた学生さんには「おめでとう」のお祝い、ご指導いただいた先生やいろいろな面で支援続けてきた職員の皆様には「ありがとう」の感謝をお伝えしたい。

先日の看護師、理学療法士、作業療法士に続いてすべてが100%。今後、これらの資格を取りたい受験生が本学を受験してくれることを望む。

3月31日 人材育成のご指導ありがとうございました。

本学の誇る高度人材育成センター。産業界を牽引する博士人材育成を目指して活動している。28日にこの関連のプログラムを修了した学生に証書を渡す機会があり、このセンター発足からご指導を頂いた松田元伸さんにお会いした。この三月で退かれるので、メッセージを書いていただいた。しばらく学長室に掲示しておくつもりだ。メールボックスを調べてみたら、2007年にはリエゾンオフィスのコーディネータとして相談にのってもらっていた。時の流れるのは早い。



4月1日 今週の予定

- 2日 辞令交付式：新任教職員、昇任教員、管理職の方らに。自分の就職時のことを思い出しながらお祝いを述べようと準備しています。
- 4日 新規採用教職員研修、泰日工業大からの留学生二人に面会。
- 5日 高専入学式、新任者らとの懇談。
- 6日 入学式@大阪国際会議場にて、秋入学の留学生にも参加してほしいと思っています。「風」の話をする予定。
- 7日 花（さくら）まつり@中百舌鳥キャンパス

4月2日 新任教職員の皆様、大阪府立大学へようこそ。

本日は新しく採用した37名（内女性15名）の教員、9名の職員（内女性5名）、府からの派遣職員6名に辞令を交付し、挨拶を述べた。なかには、先日学位記授与式でお会いした本学の卒業生もいた。教員にも職員にも昇任された方が多数おられ、この3月から4月というのは、毎年のことではあるが、大きな区切りだ。

この皆さん、特に職員の方との最初の大仕事は、公立大学法人大阪市立大学との法人統合だ。大変なご苦労をおかけするだろうが、将来に向けてやりがいのある仕事だともいえる。

少子高齢化の社会を前にして、そして国際競争が激化する中で、両大学だけでなく、我が国においては、国立や私立においても法人統合・大学統合は間違いなくその方向に進む。どうせ進むなら、一番早く体力のあるうちにやり遂げたい。

4月3日 辞令発令後、学内を散策（2日）

当日はカリキュラムオリエンテーションなど新入生の行事があり、教職員とも多忙の極みだったようだ。そのぶん、私には自由時間があり、学内の事務所を回った（中百舌鳥キャンパスの大半を回れたと思う）。

1人でぶらぶらと歩いていると新入生らしき学生が寄ってくる。何だろうと思っていると「オリエンテーションの部屋にスマホを忘れたのですが、どこの部屋かわからなくなったので教えてくださいませんか」。教職員の名札を首からかけていたので、声をかけてくれたのだろう。これには答えが分からなかったなので、別の職員を紹介した。

各事務所では、他のキャンパスから移って見えた方、新人の方、それぞれ忙しく席替えなどに追われていた。新年度の匂いがする。

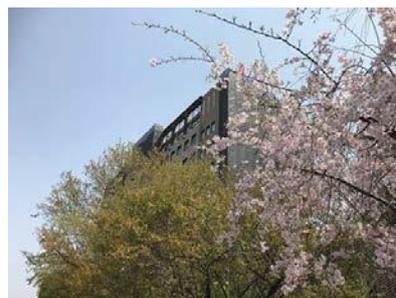


#### 4月4日 新規採用教職員研修

法人はSD研修をしなければならないことになっている。その一環として、4日と9日の二日に渡り、労務管理、健康関係、研究公正、大学史などの研修が用意されている。

私も冒頭25分ほど話をする機会を得た。理念「高度研究型大学～世界に翔く地域の信頼拠点」と大切にしている視点「多様・融合・国際」について私の考えを話すことができた。

今回採用された方には20歳代もおられる。30年後、40年後の大学はどうなっているかを思い浮かべながら話す内容を準備したが、どうだっただろうか。終了後は記念撮影もさせてもらった。健康に留意されて、ご家族を大切に、夢をもって仕事に励んでいただけることを期待している。



#### 4月5日 泰日工業大学からインターンシップ生

タイのバンコクにある同大学からタータン君とパーク君が来日。日本に留学できるチャンスが大きいと同大学に進学し、同大学に留学していた府大生との交流が縁で本学に来たという。彼らは企業で就業経験するとともに高専でも学ぶ予定だ。

I-wingに入寮していてフランス人、中国人、日本人と同じユニットに住んでいるという(4部屋で1ユニット=バス・トイレ・キッチン共用になっている)。いろいろな言葉で交流しているそうだ。友人をいっぱい作って、いい思い出をいっぱい作ってほしい。

タイでは皆ニックネームを両親からもらうそうだ。本名が長くて覚えてもらいにくいからだという。確かにそうかもしれない。メッセージをボードに書くよう依頼したところ、少し考えた後、タイ語と日本語併記で書いてくれた。タイ語を見たことはあったが、それを書くところを初めて見せてもらった。



#### 4月6日 入学式

来賓として濱田大阪府副知事、奴井大阪府議会副議長らをお迎えし盛大に開催した。学士課程(学域学類)への入学生1,440名、同編入生36名、大学院(研究科)への入学生775名の許可を出す入学式。代表お二人が新入生宣誓を行った。

本年の式辞では、本学の理念「高度研究型大学～世界に翔く地域の信頼拠点」について「風」を題材に話した。スポーツと風、歌詞と風、匂いを運ぶ風。いつも式辞に時間をかけ、伝わるように抑揚をつけて話そうとしているが、うまくできているだろうか。

風は常に向きを変えるし、力も変わる。自分の好まない風が



吹いているときには、柳のように「しなやかに」吹かれてやりすごし、ときがくるまで「したたかに」準備を重ねておき、「今だ」というときに力強く自分の望む世界に翔けるように府大風の学修をしてほしい。

#### 4月7日 入学式の写真

昨日举行された入学式。普通の参加者が見れない角度の写真を取ったので共有する。将来に対しいろいろな想いをもちた人が一堂に介すところで話す機会をもらえるのは、非常に緊張するが光栄なことだ。帰宅後インターネット配信された動画を見たが、反省するところも何か所かあった。

以前は入学宣誓を行っていなかったが、昨年からは始めた。大学院生の代表と学域生の代表に宣誓してもらうことにしている。新入生とご家族で2500名を超える出席者がいるので、申し訳ないが、一部のご家族には別のフロアでモニター（大写し）を見て頂いている。失礼が気になっていて、式後モニター会場でお詫びかたがた直接挨拶をすることになっている。

式は二部構成になっていて、二部では応援団の演舞を含め、部活動の紹介を行っている。どこで今後の人生に大きな影響を与える出会いがあるかはわからないがここ数日で入る部活動への参加はその一つであろう。



#### 4月8日 花（さくら）まつり

今年のサクラの開花は記録に残っている中でもっとも早かったらしい。当初、入学式の式辞で「キャンパスのサクラが新入生を待ち構えて・・・」と用意していたのを「キャンパスのサクラは待ちきれず満開になり若葉を・・・」に書き改めることになった。この桜はソメイヨシノ系。

府大には約40種、400本のサクラがあり、ヤエザクラ系は今花盛り。今回の植樹（写真は竹山修身塚市長らと）もこのヤエザクラの仲間。

（入学式の式辞で「風」を題材にしたためだろうか）風が強く、寒い日であったが、多数の来場者があった。教職員のご家族も多数見えていて、あちこちで紹介してもらったり、挨拶させてもらった（このことは結構嬉しい）。受験生のためのコーナを新たにはじめたほか、高専からの展示もあった。（羽曳野キャンパスやりんくうキャンパスからもこれまでも参加を得ている）フィールドの即売会、スタンプラリー、ほかほかほか（少し疲れが残っており、ゆっくり回れなかったのが残念であり申し訳ない）。

2010年に府大池を改修したことを記念にはじまったが、今では地域の方にも参加していただき、自然や環境の学習の場となっている。区役所や高校などにもチラシを配り、入学式でもご家族の方にご案内したが、府大の匂いを知るために来ていただけたであろうか。



#### 4月9日 退職者辞令交付

少し時間が経ってしまったが、3月31日に定年退職者への辞令を交付した。引き続き残っていた多く方もおられるが、次の送辞を述べた（当日は若干ジョークも加えながら述べさせていただいた）。

----- おはようございます。例年になく桜の開花が早く、大阪では記録をつけてから最速タイということですが、この桜の美しいキャンパスにおいて、

教員18名（16名が参加）、職員4名（全員）と一つの区切りとしてのお別れというかお祝いを述べさせていただきます。みなさま、本日はご定年退職おめでとうございます。

以前、奥野武俊先生が、3月末の退職辞令の交付式で「おめでとうございます」と言われるのを横で聞いたときには、少なからず異和感をもちました。まだまだお元気で働けるあるいは働きたいと考えておられる方を前に「定年」ということで、退いていただくことになり、このことを「お祝い」していいものかどうか感じておりました。しかし、自分が今の立場になって、「健康で定められた年月までやりとげられた」こと、そして「一つの区切りをつけられた」ことがいかに素晴らしいことかがわかるようになってきました。皆さまはもとより、ご家族の皆様にも心よりお喜び申し上げます。どうぞよろしくお伝えください。

大学には、ここ数年、いろいろ困難な事案がありました。少子高齢化、国際的な競争の激化、東京圏への一極集中などを背景に今も多く懸案事項が続いてありますが、皆様のご尽力・ご協力によって今の大阪府立大学があると深く感謝しております。最近をみても裁量労働制に伴うサービス管理、入学試験志願者数減少に対する対策、意見が分かれる教員業績評価、今回府議会・市会の議決がそろいましたが大阪市大との統合議論など、多くの課題を共有頂けたことと思います。

教員の皆様におかれましては、大阪府立大学の名誉を高めるための教育・研究・社会貢献にご尽力いただきました。大学や学生を思うが故に、時に執行部に厳しいご意見を頂くこともありました。ご不満を感じられることも多かったと推察しますが、最終的に、執行部の決断・判断をご理解・ご協力いただけたことを心より感謝しています。職員の皆様にも、教員からの要望と大学規程との板挟み、挑戦的にやりたいことと予算制約の板挟みなどいろいろなお苦勞をおかけしたと思います。誇りある我が大阪府立大学の教員・学生の活躍をご支援いただけたことに感謝しています。大阪府立大学を代表してお礼申し上げます。ありがとうございました。

4月7日の花まつりには、ぜひ顔を出していただきたいと思います。友好祭・白鷺祭などのイベントなどにもぜひお越しください。今後とも健康に留意されて、引き続き本学のご支援をよろしくお願い申し上げます。

#### 4月10日 4月の2週になり通勤は混雑

御堂筋線で通勤している。梅田から乗車しているが、3月は乗客が減っていて楽だった。それに対し、昨日はすごく混雑していて、一本見送ることになった。（なんとか乗りこもうと試みたが、誰に見られているかわからないと気づき途中で断念した）そういえば地下鉄は民営化されたが、あまりそのことには気づかない。



退勤後、高野道を帰ろうとしたが学生がいっぱいで（彼らのスピードにあわさないと）歩けそうにない。自転車も走っている。そこで310号線に沿って歩いた。それでも多くの学生がいた。

新学期だなぁ……。キャンパスに講義の声が戻ってきている。

#### 4月11日 ゲスト・スピーカーとしての講義

今年度 前半の講義・講演の機会は 次の通り。過去に話した内容であるが、時間のとれたときにマイナーチェンジをして 準備を進めている。

4月28日 経済学研究科社会人大学院生向け講義@ I-site なんば

昨年度に続き2回目。PC を用いた演習を入れる予定。

5月13日 日中大学学長フォーラム&パネルで講演@広州

留学生が増えるよう大学を PR する。

5月16日 公大協所属大学の職員研修@ I-site なんば

昨年は114名の参加があり、今年は130名を見込んでいるとのこと。

5月23日 Embry Riddle 航空大学の日本留学生への特別講義@中百舌鳥

15名の方が一ヶ月府大に滞在。海外の大学からこれだけの人数をこれだけの期間受け入れるのは関係者の多大な負担になっているが、私も Victim (Volunteer?) として英語講義することに手をあげた。

6月16日 高専1年生への特別講義「総合システム工学概論」@寝屋川

今年で三回目。中学卒業後の方に話をするのも楽しみ。

8月30日 インドネシアでの国際会議で基調講演 バリ島

府大同窓生のお世話で40年間のシステム開発・研究・教育を語る予定

#### 4月12日 行動パターン

研究室で学生を指導している頃、「今、部屋が寒くて「窓があいているのではないかな。見てきてくれない」と言われたらどうする」と言った覚えがある。そして、いろいろなパターンがあることを示して、考えてもらった。

- (1) 見に行き「開いていました。閉めてきました」という（行動をとる=以下同じ）人
- (2) 見に行き「開いていました。（閉めずに）暖房を入れました」という人。
- (3) 「開いていました」とみただけの人。
- (4) 見に行かずに「きっと開いていますよ」という人。
- (5) 別の誰かに「見てきてくれない」と丸投げする人。
- (6) 見に行き「開いていました。隣の部屋も見てきました。両方とも閉めてきました」という人。
- (7) 見に行こうとして「楽しい、楽しい、そうだそうだ」と言っているうちに、途中で何をするのかを忘れてしまう人。
- (8) 見に行く途中、他の誰かに別のことを頼まれて、忘れてしまう人（戻ってこない）。
- (9) 「なんでそんなことしないといけないの」と尋ねて（？）動かない人。
- (10) 「一緒に行ってください」という人。

きっと、他にもあるだろう。確か、こんなパターンを発話行動モデルと言い、哲学でもビジネスでも福祉でも看護でも情報でもいろいろな分野で研究されていたと思う。付度という概念もこういうことを絡めて考えると面白い。

#### 4月13日 大阪市大の屋上から堺を見る

先日、大阪市大で荒川学長とお会いする機会があった。公務終了後、学術情報センターの屋上に案内してもらった。なかなかの見晴らしだ。大阪府大が見えないかと目を凝らしてみたが、もやっていたこともあり、分からなかった。6キロメートルを近いと言っていいのか遠いというべきか。



古墳の小高い丘以外に高い山はないので、堺を一望できた。堺は、摂津、和泉、河内の三つの国境のため、「境」と書かれたり、地図に描くと左に海が見えるので、「左海」と書かれたこともあったと聞く。高いところに上がると遠いところまで見える。また、360度広く見える（パノラマ写真を撮ればよかった）。

人生も一緒に、少し高いところに上ると、今まで見えなかった遠くが見え、一つの方向しか見ていなかったのが他にも方向があることが見える。60歳代の半ばになった今でも、自己研鑽を続けなければならないと感じる一瞬だった。

#### 4月14日 性教育カルタ

先日、プレス発表した看護学研究科の佐保先生のカルタが共同通信の英語版で流れていた。口に出しにくいことを楽しみながら学ぶように狙ったことが注目されている。

#### 4月15日 米国大学17名が中百舌鳥キャンパスに一月滞在

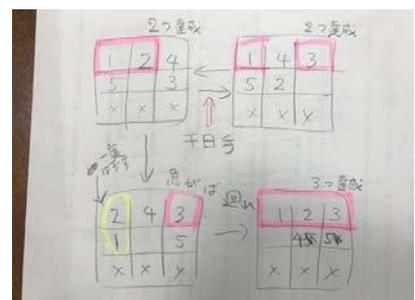
少し先の話だが、5月14日からアリゾナ州にあるエンブリー・リドル航空大学の学生15名、教員2名が府大に滞在する。日本の文化、歴史、習慣などを学びながら、正規科目（同行教員が講義）、府大特別講義（私も一回担当）、課外活動（友好祭にも参加）を通じて府大生と交流する。

府大生には、各種学生団体・課外活動団体と交流するほか、一般学生から、Buddy と呼ぶ帯同学生を（学生ポータル経由で30名）募集する。本学には留学生チューターや RA (Resident Assistant) という制度があるが、Buddy は、初めて。多くの応募があることを願っている。

（教員に負担をかけず）（国際交流担当だけでなく）学内幅広い事務局職員によるプロジェクト・チームで準備から受け入れまでの運営を行っており、職員のグローバル化促進、グローバル教育プログラム策定への足掛かりとしたい。本学の国際交流は、「出島」をつくることではない。

#### 4月16日 急がばまわれ

自分にとって都合のよい状態を一気に実現することは必ずしも得策ではないし短時間ではできないことがある。しかし、少し先をみて回り道をすれば可能なことになることもある。「急がばまわれ」とでもいおうか。



先日、目標とその一步手前の状態のことを考える機会があって、30年前にサバティカルの機会に考えていたことを思い出した。有名なエイトパズルで子供の頃に楽しんだ方も多いただろう。右下図のように「1, 2, 3・・・」を並べるのが目標で、左上図において「1」「2」の次に「3」を目標位置に並べようとする **Goal Interaction** といって、「2」をはずさなければならず(右上図)、「2」を戻そうとすると再度「3」がはずれ、千日手になってしまう。こういうときは一度「1」も「2」もはずれてもらい(左下図)、一步先を見て戦略(急がば回れ戦略=**forestalling**)をとると実現できる。この場合は「4」を「2」と「3」の間からはずすことを優先するのだ。

人工知能の研究をすること、知能を計算機で実行可能にしようとして研究してきたことは、日常活動・意思決定のヒントになっている。

#### 4月17日 教育PROに大阪府立大学特集号

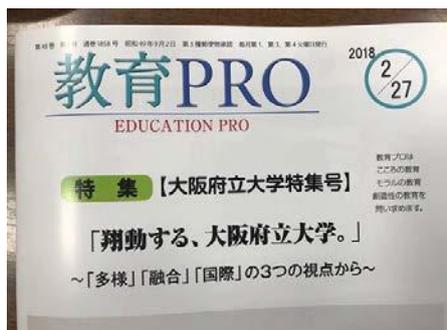
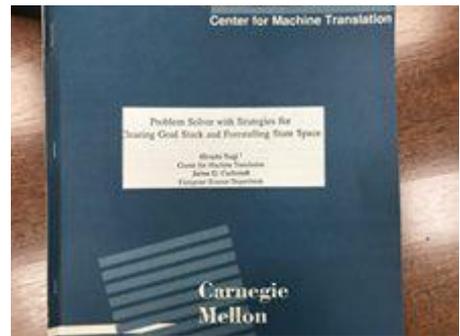
高校の先生方に府大のことを少しでも知っていただくために、教育PROという雑誌にお願いして府大の特集号を書いていただいた。私は、IRIS(理系女子大学院生チーム)の清水さん(工学研究科)と丸本さん(理学系研究科)そして真嶋先生(ダイバーシティ研究環境研究所長)と座談会を行い取材して頂いた。この全文は下記から読めるようになっている。

高橋先生(教育・入試担当副学長)、吉田先生(学生担当副学長)、杉村先生(国際交流渉外担当特命副学長)のインタビュー記事もある。さらに、若手起業家の学生としてLiveDeliの安達社長にも語ってもらっている。

#### 4月18日 ツツジの季節

つい先日サクラが満開だったのにあつという間に暖くなりツツジの季節になった。連休までが見ごろではないだろうか。一枚目はA11棟北側。二枚目、三枚目、四枚目は同じ場所を違う角度から撮影したものだが、どこかわかるだろうか。これが散ると友好祭。

本日の日経Webサイトに先日の入学式の式辞について触れて頂いた。「風」を題材にいろいろなことを述べたが、一言でいうとなにかというところをうまく引き抜いていただいたことに感謝。



#### 4月19日 公開講座「関西経済論」始まる

平成7年に始まった公開講座。毎年1000人近くを受講者を迎え、これまで延べで20万人が聴講している。今年は24回目で19日から計12回開講する。

第一回は元阪神タイガースの亀山つとむ氏。高校時代から入団、2軍から1軍、有名なヘッドスライディングの話、今年の阪神の活躍の見通しなどユーモアを交えながら、一方、人としての生き方にヒントになるような話をしていただいた。

人には巡り合わせがあり、相性の会う人との出会いが大切ということが印象に残った。



#### 4月20日 OPU Channel

新しいPRビデオが完成して、学内でも試聴した。二人の卒業生 棚田麻美さん(生命環境科学部 生命機能化学科 2010年卒、海遊館勤務)、小川恵志郎さん(工学研究科 電気・情報系専攻 2015年修了、パナソニック勤務)が登場、母校について職場で語ってくれている。他にも授業の様子、キャンパスの案内もある。

空からの映像を見ると、改めてドローンの威力も知る。

<https://www.youtube.com/user/opuchannel>

こういう映像も何かの会議の前後や講演の前後やイベントの前後に、皆で広報してほしい。少しでも府大のことを知ってもらって、府大への要望やご意見を広聴しよう。



#### 4月21日 中百舌鳥キャンパスに新緑

今年の気温の上昇は早い。そのためか、中百舌鳥の春は短くあっという間に初夏になったように感じる。府大池を覗くとオタマジャクシが日向ぼっこをしていた。



#### 4月22日 弔問

大学を出て入社し少したったときに指導していただいた部長が3月19日(月)に亡くなられ、遅くなったが昨日奥様を夫婦で弔問した。当時は神奈川県にいて、子連れでご自宅に招かれたこともある。その後、関連会社に転籍され関西に異動されたが、私も少し遅れて大阪の研究所に異動になり、たまにお会いすると常に激励を頂いていた。会社を退職して、府大に赴任してからは、非常勤講師をお願いしていたので、2003年～2006年に経営工学科にいた卒業生は講義を聞いたかもしれない。



上流から下流までソフトウェア開発の絵巻物を書かれていたのを今でも覚えていて、全体図の中で自分の仕事を位置づける大切さを教えて頂いたと感謝している。「自分なりの地図を描いて」と日頃言うのはこのときの指導を受けたためだ。 合掌。



4月23日 学生課・教育推進課がA3棟に

耐震工事を転がし方式で実施してきている。この一年間、学生がよく来る学生課・教育推進課は、中百舌鳥門の近くのA11棟に一時的に移動していたが、今週から元のA3棟に戻った。キャンパスの中心にだ。ヤシの木の模様に近いと思うのだが、これは意図的なのだろうか。西側は全くトーンが違う色彩になっている。



自転車でこの棟にくる学生も多いと思うが、整列駐車に注意してほしい。「自転車がきれいに駐車しているナンバーワン大学」になりたいものだ。毎日時間に追われているが、日時計を見るとなぜかほっとする。

4月24日 ネクタイ

朝出勤時にネクタイをして出かける。大学についてしばらくすると暑くなって首からはずして机の前にかける。「あっ、昨日もネクタイをはずしたんだ」と思い出す(写真)。なぜなら昨日はずしたまま帰宅したからだ。



それが積み重なっていつしかネクタイだらけになっていた。私の執務机の上。これを見ても「堺」に暑い夏が近づいていることがわかる。

4月25日 ジャガイモ洗い機

最近ある事案があり、そのときに思い出した話を紹介する。デザイン思考の教育などで有名なので聞いた方がおられるかもしれない。記憶をたどって書いているので自分なりの勝手な解釈(改ざんではないが書き換え)になっているかもしれない。



ある電気メーカーが洗濯機を農業国に輸出した。すると、泥が詰まってよく故障するという。そのときにどうするかという話だ。

(1) オプションA

きっと農作業の服に泥がついているのだろうと考え、泥を事前にフィルターするような(機械面でも電気面でも)技術的に優れた洗濯機を開発する。

## (2) オプション B

泥がついているものを洗うのがそもそもおかしいと考え、マニュアルに「泥の着いた衣服を洗わぬように」と（認知心理学的にも）とても分かりやすく書き加える。また、ふたにも「泥の着いている衣服の洗濯禁止」とシールを目立つように貼る。

ある技術者は、そのどちらのオプションにも疑問を感じ、「何が起きているのか実際に見よう」ということで現地へ赴いた。すると、そこでは洗濯機でジャガイモを洗っていた（農作業の服には問題がなかった）。その技術者は、「この地では、ジャガイモの泥落としのニーズ（作業負荷を軽減できる）がある」と考え、安価なジャガイモ洗い機を新規開発したという。「Go or Loss」（実際の現場に行かないと損するよ）ということだろう。

府大生はこの技術者のようであってほしい。現場力に近く、社会ニーズを見つける力を持ってほしい。言うはたやすいがどのような教育をすればこのような人材を育てられるのかはまだよくわかっていない。

## 4月26日 さくらサイエンスプラン 第一回募集で7件採択

招へい先	招へい人数	招へい期間
インド工科大学ルー ルキー校（インド）	3名	6/1 6/14 (14日間)
プリンス・オブ・ソ ンクラ大学 (タイ)	11名	6/24~ 7/3 (10日間)
泰日工業大学 (タイ)	11名	8/23~ 9/1 (10日間)
ラオス国家大学 (ラオス)	11名	9/18~ 9/24 (7日間)
マヒドン大学 (タイ)	5名	10/29~ 11/7 (10日間)
国立台湾師範大学 (台湾)	11名	12/2~ 12/8 (7日間)
インド統計大学（イ ンド）、中国科学院 自動化研究院（中 国）、ダッカ大学（バ ングラディッシュ）	11名	12/3~ 12/23 (21日間)

招へい先	招へい人数	招へい期間
王立ブノンベン大学 (カンボジア)	11名	8/7~ 8/12 (6日間)
ダラット大学 (ベトナム)	10名	8/28~ 9/2 (6日間)
マヒドン大学 (タイ)	4名	10/30~ 11/8 (10日間)
ベトナム国家大学ホ ーチミン校・科学大 学（ベトナム）	10名	11/7~ 11/15 (9日間)
泰日工業大学 (タイ)	11名	11/16~ 11/25 (10日間)
国立台湾師範大学 (台湾)	8名	1/21~ 1/27 (7日間)
ラオス国立大学 (ラオス)	7名	2/19~ 2/24 (6日間)
カセサート大学 (タイ) カントー大学 (ベトナム)	12名 (各6)	3/4~ 3/10 (7日間)

先日、採否の発表があり、本学から7件採択された（左表）。63名のアジアの学生を受け入れることができる。今年度あと三回募集があるのでこの先さらに上乘せが期待でき楽しみだ。ちなみに、去年は四回の応募で8件の採択（右表）で、交付金額（予定）についてはすでに昨年度を上回った。

受け入れについても徐々に質をアップしたい。教職員の負担感が減り、新たな気づきや交流に対するモチベーションがあがり、府大への派遣につながったり、正規留学生としての受け入れに繋がったり、ダブル・デグリー・プログラムになったり、ステップアップ

の起爆剤にしたい。府大なりのグローバル化のモデルをつくる。国際交流担当部署が出島として行うだけでなく、全学の事務職員も参加する国際交流でありたい。世界に翔く地域の信頼拠点になるために。

## 4月27日 パクヤン大学（インドネシアとの協定へ向けて）

年明け早々に1990年代に農学部（現生命環境科学域）を卒業したインドネシアの大学の先生からメールを頂いた。いろいろやりとりがあって、26日、その学部長ともども中百舌鳥キャンパスに来ていただけた。

彼女の勤めるのは16,000人の学部生がいる私学。同国ではまだまだ人口が増えていて進学者も増えているが、一方、学位を持っている先生が少ないとのこと。交流協定があれば、学位指導を受けるための奨学金プログラムに応募しやすいということで母校に相談してもらえたということだ。

論文博士の取得を支援するプログラムがあるので、「候補者の調書を出してもらえれば、本学で指導できる先生を見つけます」と約束して、その意向確認（LOI）を交換した。8月に交流協定を締結する予定で準備する。チェックすると62件申請で58件採択。インドネシアは9件と多い。

---引用-----

論博事業は、アジア・アフリカ諸国の優れた研究者が、日本の大学において大学院の課程によらず論文提出によって博士の学位を取得できるように支援するプログラムです。学位取得のために必要な経済的支援を継続的に行うことにより、アジア・アフリカ諸国全体の学術研究水準が向上し、また、アジア・アフリカ諸国と我が国との学術交流関係がさらに発展することを目的としています。

#### 4月28日 サテライト教室で講義

経済学研究科は社会人コースをもっていて、I-site なんばをサテライト教室として夜間や休日に講義を行っている。連休の初日、「経営学特別研究A」という科目のゲストスピーカーとして講義をする機会を得た。



「システムの研究・開発・教育に携わって40年」というタイトルで自分の経験談だけでなく、パソコンを用いたコンジョイント分析という手法の演習を入れて話をした。途中の質問、講義後の質問も頂き、自由記述の感想・コメントももらった。

入学式に参加してくださった方もおられたが、新入生席に入りにくく、保護者席に行ったとのこと。来年はそのような遠慮をされる方がおられないよう注意しようと思う。また、総合大学だからサテライト教室でも幅広い科目があれば、もっと受験生が増えるのではないかという意見を頂いた。確かに、理系で技術経営、羽曳野の先生方で今後の医療ビジネスの展望など提供し、研究科を超えた学生と一緒に受講できるようにすると府大らしさが出るかと思った。

講義は授業時だけでなく、準備するときも振り返るときも楽しい。教員の方を羨ましく思う一日でもあった。

#### 4月29日 堺・バークレー姉妹都市提携50周年記念誌

昨年、両市の交流が50年ということで多くの記念行事があった。私も4月にバークレー市を訪問し、記念植樹に立ち会うとともに、UCバークレー校を訪問した。そのとき、両校で景観に関する研究の記念シンポジウムを府大で開催することにし、8月に実施した。

今回この記念誌が完成し、堺市の担当の方から一部頂いた。お祝いのメッセージにも書いたが、両市の交流は府大生が堺市長の親書をバークレー市長に手渡したのがきっかけだという。

行政同士の交流、市民同士の交流、大学の交流といった多層の交流の一翼を引き続き府大が担当していく。世界に翔く地域の信頼拠点として。



#### 4月30日 公開講座

第二期の中期計画では、地域貢献の一環として、公開講座を100にすることを目指してきた。この数字は達成したので、「生涯学習」の場を提供するという視点で、今後のこの100講座の体系化や質の向上を図るようお願いしている。

そもそも大学の存在のベースとなっている昭和22年に制定された学校教育法では、大学は教育研究（だけ）を行うことを目的として設置されていた。それに対し平成19年に改訂された法律では「教育研究を行い、その成果を広く社会に提供する」とある。明確に法律の案文として書かれたのだ。注意しなければならないのは、「大学が行った成果を」であって、それを裏返しに理解すると「大学では行っていないことを」場所だけ提供して、人集めパンダを見せることではない。「地域貢献ランキングをあげよう」「公開講座を増やそう」という掛け声のもとに逸脱していないか見直しをしていく。

-----（学校教育法から）-----

##### ◆平成19年

第八十三条 大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。

② 大学は、その目的を実現するための教育研究を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。

##### ◆昭和22年

第五十二条 大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。

5月1日 卒業生に招かれて、海南市に

連休を利用し、江戸時代に四国に渡るときに「風を待つ」湊であった「かざまち大崎」に一泊で出かけた。入学式で「風」の話をしたのも何か縁を感じる。夕日がとてもきれいで、(魚影が濃く) 漁もできるし、(海に迫っている) 山には和歌山特産の柑橘類の栽培に適しているし、外国航路の大きなタンカーから積み替えて国内に運ぶ小さなタンカーの基地(原油備蓄)にも便利な土地だ。

卒業生の廣本寿夫氏(工学OB)は、長年IT企業に勤めた後、起業して本学のFLEDGEプログラムでもお世話になった方。事務所を大崎に移して都会と往来しておられる。彼には、本学の学生もインターンシップとかボランティアとかお世話頂き、過疎の生活の体験の機会(ミカン狩り、肥料運び、草取りなど)も頂いている。実は、こういう体験だけでなく、住民の方の過疎に向かう不安、その中で、次の世代のこの環境を守りたいという願い、都会の方がリフレッシュ・癒しにくる場としての楽しみなどを聞くのが大切だと思った。テレビや新聞で見聞きする過疎とは違うことを知れるはずだ。訪問した学生たちは何を感じただろうか?

小学校は廃校になり、2名の小学生はなんとタクシー通学(教員を雇用するよりいいのだろう)、空き家も目立つそうだ。急こう配のみかん栽培は高齢者には難しかろう。府大生には、3時間作業を手伝えれば一泊食事付きで招いてくださるそうで、すでにリーダーとして自主的に声をかけて、活動している学生もいるという。和歌山大学と一緒にCOC+というプログラムを走らせているが、「世界に翔く地域の信頼拠点とは」を考えたい。



5月2日 プロジェクト管理

何人もの関与者がいるプロジェクト管理は、TODOの洗い出し、期限、担当者を明記したうえで、推進上の課題(予算や工数やあい路)を出して、ボトルネックを解消していく必要がある。期日が迫ったからといって人やお金を投入しても何の解決にもならない。

そういうことが分かっているにもかかわらず過去の多くのプロジェクトがその進捗管理に苦戦してきた。時間の共有も大切で今年度から残り日数を掲示している。本日、ゾロ目だった。222日になり、111日なり、二けたになり、時日の経つのがどんどん早くなっている気がする。



### 5月3日 推薦図書を持つ

先日、関西大学、大阪市立大学との学長の交流の場があった。そこで芝井学長が、入学式の際に推薦図書 100 冊の紹介を冊子にして配っているという話があった。

本学にも教員が推薦する 100 冊の本をその推薦理由とともに「読ン得本々」という冊子を作っていて、入学後のオリエンテーションで配布している。レポジトリで検索すると電子的に PDF で読める。

以前、教授だったときには自分の推薦図書を最初の講義で学生に配布していた。今、推薦図書を持てるかという少し自信がない。いつしか読む本の量が激減してしまった。教職員も学生も自分の推薦図書を持ちたいものだ。そして共有したいものだ。連休はいいチャンスかもしれない。



### 5月4日 祭色兼美

連休が終わると友好祭（5月26日、27日）準備の追い込みで中百舌鳥キャンパスが賑やかになる。今年は第57回だ。

この友好祭は、1962年に府立三大学が団結を深めることを目的として始まった。現在では、中百舌鳥、羽曳野、りんくうキャンパスに通う学生同士の交流や、学生だけでなく教職員・地域の方同士が交流する場として、本学の春の風物詩となっている。

今年のメインテーマは「祭色兼美」。一人ひとりの異なる”色”をした個性を合わせて全力を尽くす中には、努力や友情といった形にできない“美”しさが存在する。そんな“色”や“美”を“兼”ね備えた友好“祭”にしたい、そんな思いが込められているようだ。

この友好祭という場を使って、学生、教職員、保護者、卒業生、地域の皆様方に多数の参加を頂き、才色兼備と「祭色兼美」を考える2日間となることを期待している。

### 5月5日 統計情報

久しぶりにこのページの統計情報を見てみた。

(1) ありがたいことに いつのまにか 595 人の方にフォローいただいている。

(2) 男性と女性は 2 : 1。世代は 当然 18 歳以上になるが、どの世代にもおられ、学生、教職員、卒業生と幅広くフォローいただいているのかなとありがたく思う。

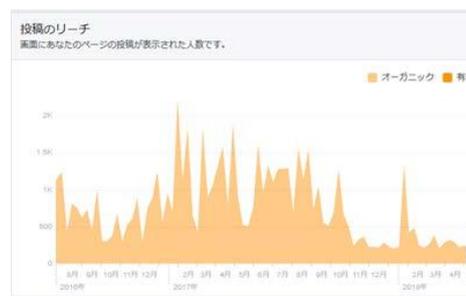
(3) 海外のフォローも 100 人を超えた。(英語でも書くべきかな?)

(4) 昨年 10 月まではコンスタントに 500 人前後にリーチし (タイムラインに表示される = 読まれているかどうかは不明)、場合により 1,500 人を超えることも稀ではなかったのが、250 人前



後に半減している。facebook のアルゴリズムの変更によるのか、リーチ数を増やすための広告の勧誘が急増している。

(5) ページビュー (毎日の訪問者=読まれる可能性大) は以前 20 前後だったのが、60 前後と三倍増している。今後も続けていくつもりだ。



5月6日 当面(5月)の予定

7日 関西私鉄五社同窓会

10日 四者(府・市・府大・市大)

新法人設立準備会議@天王寺

12日-15日 日中学長会議@広州

14日 南方科技大にて国際交流協定調印

16日 公大協「基礎研修」講義@I-site なんば

19日 市大ボート祭(所用で欠席)@大川

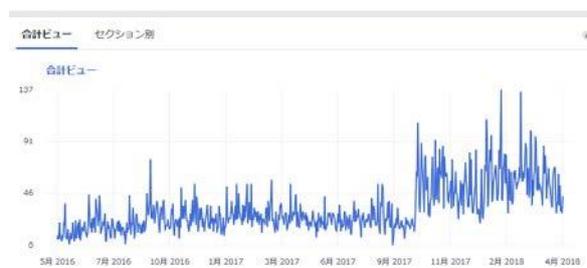
23日 Embry-Riddle 航空大学に講義@中百舌鳥

25日 大阪大学コンソーシアム@梅田

26日-27日 友好祭 (26日 保護者のためのオープンキャンパス)

27日 校友会評議会・理事会@I-site なんば

複合原子力科学研究所発足記念式典@ホテル日航関空



5月7日 (祝) 憲法記念日知事表彰

平成30年度の憲法記念日知事表彰が発表となり、本学の女性研究者支援センターが受賞した。関係者の皆様、おめでとうございます。そして、日ごろからのご尽力ありがとうございます。



5月8日 五月病

入学したり就職したりして一ヶ月経ったときに、「思っていたところと違う」と考えたり、環境に適合できずに体調を崩す例がある。注意してほしいが、私は教授時代に学生が就職するときに「思っていたところと違って当たり前。思っていたところ通りだなんてありえない」とよく言っていた。「まわりと会話できているかどうかが一番大切。でも会話できなくても慌てなくていい」とも。

環境が変わって、周りとは会話しにくければ、図書館に行って本を読もう。本屋で立ち読みをしよう。百貨店を歩こう。ウィンドウショッピングをしよう。山道を歩いてみよう。何かの気づきを与えてくれる。

5月9日 多様な思いと個性に応じたキャリアパスを尊重

本学で働いている教職員、そして入学した学生にはそれぞれの多様な思いがある。それを理解することに努めたい。また、教職員・学生それぞれの個性に応じたキャリアパスをともに考え、指導

する体制を持ちたい。このことを今年は徹底していかなければならないと痛感している。これができないと（意識的かどうかは別にして）ハラスメントが起こる可能性が高くなる。

昨年度末に卒業した学生の声を多数読んだ。匿名のものであるが、ハラスメント被害について「今だから言える」という声があった。自身のものでなく周囲で見たというものもあった。防止策を作っているだけにもっと早くキャッチできなかったのか、きっと告発しにくいのだろうと反省する。

「どこに相談すればいいのかわからない」と記されているものもあった。本学では、学生に対しても教職員に対してもハラスメントの防止等に関するガイドラインをつくり、その防止と対策に取り組んでいる。また、各学域・部署等にハラスメント相談員を配置している。相談員は、被害にあわれた方はもちろん、加害者とみなされたり、そのような懸念をもつ人の相談に応じる。とはいえ、先日来の財務省の案件を含め、まだまだ告発するにはハードルが高いのも事実だろう。改善の余地を見つけ、対応していく。

相談員は相談者のプライバシーを守り、相談内容については、秘密を厳守し、相談に訪れたことによって不利益を受けることがないように配慮しながら、問題を適切かつ迅速に解決するよう努めている。全員が意識改革していくしかない。

何かあれば相談窓口で話してほしい。



2018年5月

大阪府立大学「日中大学学長等個別会談」にかかるご案内事項

この度は「日中大学フェア＆フォーラム in CHINA2018」へご参加を賜り、誠にありがとうございます。本学学長ご参加の「日中大学学長等個別会談」につき、中国側学長の希望ならびに主催者側による判断にて以下の通り調整させていただきましたので、ご確認お願いいたします。

記

日時：5月12日(土) 15:30-17:30  
会場：広州花園酒店 3階 ファンクションルーム（アジアハイビスカス）

時間	中国側大学・機関
15:30-15:45	広東工業大学
15:45-16:00	華東交通大学
16:00-16:15	華南師範大学
16:15-16:30	首都師範大学
16:30-16:45	廣州大学
16:45-17:00	長春汽車工業高等专科学校
17:00-17:15	山東交通学院
17:15-17:30	自由散談

## 5月10日 日中学長フォーラム（個別会談）

週末に広州で開催される日中学長フォーラムに参加する。

12日の個別会談の相手先が決まった。いずれもまだ交流協定を締結していない大学であり、本学の教員が交流しているか、OB/OGに何か縁があるか把握できていない。

もし、何か情報があれば、教えてほしい。

## 5月11日 Embry Riddle 航空大学の学生の受け入れ

昨年末、工学研究科の先生から、「米国の大学が日本で一ヶ月講義をする場所を提供してほしいという話があるが府大では可能か」という相談があった。よく聞くと、米国から二人の先生が20名弱の学生と一緒に来日し、彼らの講義を日本で行うのが基本で、「一か月の間に日本企業を訪問したり、文化に触れたい」ということだった。

本学への依頼は、教室の提供、食堂の利用の許可、いくつかの講義の提供ということで、調べてみたところ、できそうだったので、「では、受入れてみよう」ということで準備を進めてきた。とはいえ、関係者には通常以外の業務を課してしまった。

その学生が来週から府大に滞在する。食堂や図書館で目にすることもあるだろう。ぜひ、気軽に声をかけてほしい。

また、彼らの講義後の時間や休日の時間のお世話をするバディを募集したところ、40名を超える手があがった。想像を超える数だったので嬉しい。先日、オリエンテーション（写真）をしたと聞いている。いい経験をしてくれればと願っている。世界に翔く地域の信頼拠点として。



5月12日 日中学長フォーラム（分科会）

13日の分科会の発表メンバーの連絡があった。日本語で発表して、同時通訳(?)してくれるらしい。一人5分なのでそれほど話せないが。「高度研究型大学～世界に翔く地域の信頼拠点」という理念のもと、「多様」「融合」「国際」という視点を大切にしているということを発表しようと思う。

反応については後日報告したい。

・分科会 B-3)テーマ: オンラインを目指す大学の経営理念について

モデレータ: 広東工業大学	学長	陳新
大阪府立大学	理事長、学長	辻洋
九州産業大学	学長	榊泰輔
工学院大学	学長	佐藤光史
静岡県立大学	学長	鬼頭宏
兵庫県立大学	学長	太田勲
三重大学	理事、副学長	鶴岡信治
桂林電子科技大学	学長	古天龍
華東交通大学	党委書記	万明
湖南工業大学	学長	譚益民

5月13日 月間大学（5月10日夕刊）

先日、大阪市立大学の荒川哲男学長とともに読売新聞社に取材された内容が記事にされました。

---（ここから）-----

運営法人の来春の統合が決まった大阪府立大と大阪市立大。両大学はさらに、大学本体を統合して新大学を開学することを目指すという。なぜ今、統合なのか。辻洋・府立大学長と、荒川哲男・市立大学長に意義と課題を聞いた。

——運営法人を来春統合することが、大学の設立団体である府と市の議会で決まった。どう受け止めているか。

辻 大学統合という目標に向けてスタートラインに立てた。教育組織やキャンパスについて考えながら、産学官連携や国際交流を両大学で実質的に共通化するなど、できることを進めたい。

荒川 法人統合はあくまでワンステップ。ここでつまずかず、魅力ある新大学をつくる。

——大学の統合を目指す理由は。

荒川 二つの大学を足すだけではなく、シナジー（相乗効果）を出せる。両大学の特徴をもっともつとがらせて、優秀な研究者と学生が集まる大学にしたい。

辻 スケールメリット（規模拡大効果）が期待できる。大学は留学生を受け入れたり、日本の学生を海外に送り出したりすることが求められており、学生数が多い方がいいプログラムができる。

荒川 優れた研究と優れた教育システムのほかに、大学がどこにあるかも重要なポイント。都心のキャンパスが必要だ。

——吉村洋文・大阪市長が市議会で新キャンパスの候補地とした森之宮地区（大阪市城東区）については。

辻 両大学のキャンパスは現在計5か所あり、全てを1か所に集めるのは難しいだろうが、新大学が誕生するときに象徴となるキャンパスが欲しい。

荒川 大阪都心である程度大きなスペースといえば森之宮だろう。大阪は健康上の問題なく日常生活を送る「健康寿命」が短い。府立大の獣医学、市立大の医学の分野の研究者らが中心となり、ここでプロジェクトを行って課題を解決していけば、新大学のシンボルにできる。



辻 両大学の蓄積を生かすことで、動物実験や治験（臨床試験）など、創薬に必要な流れをカバーできる。1、2年生が全員受ける共通教育も1か所で行いたい。近畿圏どこからでも通学でき、人がぐっと集まるだろう。

荒川 外国人観光客が多い大阪城に近く、共通教育で英語を身につける実習の場がいい。周辺は府や市の土地が多い。都市計画全体の中で位置づけて整備すれば、まちと一体となったキャンパスになる。

——財源はどのように捻出するのか。

辻 府、市からそれぞれの大学への運営費交付金はこの10年で大きく減ったが、統合後は現状より減らさないと約束してくれた。これとは別に初期投資も要る。

荒川 いい大学をつくるためには初期投資なしではできない。長期計画を立て、府と市にお願いしていく。

辻 大学としても努力する。財界に寄付を呼びかけたり、入学生から施設の整備協力金を集めたりすることも考えられる。

——少子化で大学間競争が激しくなる中、公立の新大学をつくる意義は何か。

荒川 国は国立大の法人統合や国公私立大のグループ化を検討している。我々は2大学から1大学への縮小ではなく、夢のある統合の手本を示したい。世界大学ランキングで200位以内に入る大学をつくる。なかでも、特徴的な分野は東洋一、世界一を目指す。

辻 日本の大学は序列が固定している。大学が何か失敗しても変化しないのはおかしい。新大学ができることで、順位が入れ替わるぐらいの緊張感がある方が、日本の大学全体にいい影響を与える。

## 5月14日 Embry Riddle 航空大学の学生の受け入れ（2）

私も一回講義をする機会をもらった。少しでも質をあげようと遅まきながら、教室での英語を学習。以前にいくつかの本を購入していた。CDもついていたので、スマホに同期した。短期間ではあるが、耳を慣らそうと思う。



## 5月15日 「全員広報宣言」サポーター

大学のブランドをあげるために、広報は大切な活動だ。広報課職員だけでなく、他の部署の職員、学生、さらには卒業生にも協力を求めたい。昨年、府大・高専全員広報宣言として、掛け声をかけ、特に職員の方にサポーターとして活動してもらっている。

サポーターとしての場を考えると、以前、田中優子先生に教えて頂いた江戸時代の知恵「連」に大胆に喩えるような気がする。

- ・(運営しやすい) 適正規模を保持
- ・強力的リーダーではなく、世話役
- ・予算を新たにつけずに、何かを創造
- ・多様な情報を内外で交換
- ・存続自体を目的としない
- ・多様な職能者が混在
- ・メンバーと同一化せず、メンバーと無関係にもならない
- ・外（個人にも他のグループにも）に開かれている
- ・多名である（ニックネーム、イニシャル、匿名）

今年度も11日に発足した。楽しく活動してほしい。



## 5月16日 袖振り合うも他生の縁

こういう格言を知っているだろうか？今回、日中学長フォーラムの学長個別会談（12日）で通訳してくれた李さん（3月に日本で学位を取得されていて、近く、広州で大学の日本語教師に着任するという）に言われて驚いた。

関空から四時間弱のところ広州がある。大きな街だ。空港から一時間のホテルを会場としてこのフォーラムがあった。到着後少し休憩し、2時間にわたり、次から次へと中国の大学の学長が見え、交流の可能性を意見交換。わずか15分なので大変だ。

最初こそ、私が日本語で話し、それを通訳してもらっていたが、数校終わったら、先に一通りの説明や日本語抜きで行ってもらえるようになった。府大のヤッケを着用してもらったので、府大職員と間違えられたこともあった。ちなみに写真には府大の幟もみえるが、ヤッケや幟を用意したのは我々だけでよかったと思う。

予定したすべての大学を終えてからも、次から次へと意見交換を申し込まれ、最後の最後まで残っていた。最後は、JSTの方に「早く懇親会場に行くように」と言われ、終了した。短い時間であったが、刺激的なひとときであった。

## 5月17日 日中学長フォーラム（13日＝二日目）

主催者側発表で2000人の参加者があったという。特に一日目の技術展示、大学紹介には多数の参加があったようだ（私は学長個別会談で様子を見れず）。二日目午前は開会式、関係機関による講演で500人以上は参加していたと思う。

講演では、次の紹介があった。中国の留学生は全国では40%（府大では50%）。リーディング大学院の学生は、全国で約4000人中中国人が約400人。さくらサイエンスプラン（もともと中国だけを対象とした案が、文科大臣指示でアジア広域に広がり、今年から外務大臣指示で中南米に広がった）では、6600人の招へい中2500人が中国から。一方で、日本から中国への留学は少ない。

午後はフォーラム。5つのグループに分かれていて、私のグループは日本側6校、中国側5校の計11校。2時間しかないので、同時通訳のもとで、1校あたり5分～10分だった。こういう場での講演は、よほど尖った話をしないと（単なる大学紹介では）何も記憶に残らない。府大ヤッケ着用で目立っておいた（何人かの学長が「来年は自分のヤッケ着用」と言われていた）。



## 5月18日 南方科技大と国際交流協定を締結

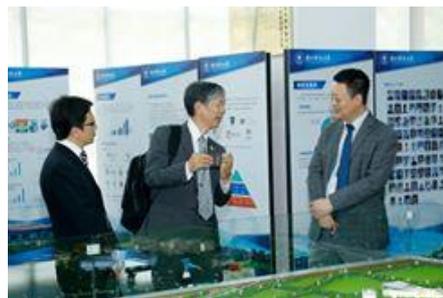
日中大学フェアのあった広州から新幹線で30分のところに深セン市がある。以前、人口30万人だった漁村は経済特区として発展し、今ではシリコンバレーより早いスピードでものごとが進んでいると言われている。

南方科技大は、深セン市が七年前に作った新しい大学。欧米で教鞭をとっていた著名な教員を専任として迎え、毎年大学ランキングをあげている。本学の知能情報工学分野の石淵教授は今年の4月から、3年間同大学に招へいされ研究を進



めている。また、化学工学分野の許岩准教授は同大学と共同研究を進めている。

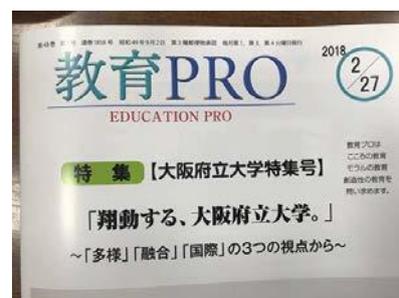
このような背景で広州から日帰り出張し、国際交流協定を締結した。ジオラマでキャンパスの説明を受け、ピコレベルの物質観察の顕微鏡を見学し、具体的な交流について意見交換ができた。「深センを知ることが、今、中国の発展を知ることだ」と聞いていたが、確かにそのように感じた。



#### 5月19日 特集「翔動する、大阪府立大学」

全国の高校に配布される教育雑誌「教育PRO」で先日、本学の特集号を発行して頂いていたところ、許可を得て、そのデジタルパンフレットを大学HPから発信しはじめた。

少しでも本学のことを知ってもらうために、全員広報員として。そして、将来2018年に大阪府立大学が何をしてきたかの記録を残すために。



#### 5月20日 法人役員OB会（4月7日）

古い話になるが、公立大学法人になってからの役員（理事・監事）にお声がけして、花まつりのあった4月7日に、第一部：キャンパス見学、第二部：近況報告、第三部：懇親会を行った。

キャンパス見学では、ボッチャを興じたほか、女性研究者支援センター、植物工場、大学史を展示するヒストリアの見学を行った。近況報告では、女性研究者の活躍、特徴ある教育プログラム、最近の研究成果などを紹介した（I-wing なかもず）。

懇親会は天王寺に場所をかえ、大阪府下の三大学統合、学士課程改革、大阪市大との法人統合などでの思い出話に花が咲いた。今後も元理事、元監事の方には、法人運営の応援団としてアドバイスをもらっていこうと思う。



#### 5月21日 入社40周年同期会

私は1978年に総合電機メーカーの研究所で働き始めた。同期に（記憶が正しければ）23人いた。男性13名、女性10名。今でいう研究職のリケジョも5名。その後、私のように転職したのもいれば、まだ永年勤務しているのもいる。残念なことに二人は早世している。当時の研究所は、150人を少し超えたぐらいで大半は20歳代だった。40歳を超える人でシステム・ソフトウェアを分かる人はほとんどいなかったもので、若い時から、いろいろ仕事を任せてもらった。



最近は、城崎、真鶴、金沢、旭川、下呂と一泊同期旅行をしていて、今年は淡路島にしていた。当初、12日・13日で予約していたが、中国出張が入った。月末は友好祭、6月はOB会が続くので、19日は市大ボート祭に招かれていたが、それを失礼して出かけた。

今年の参加者は、男女合わせて10名。孫のいるのも少なくない。入社当時には40年後の姿を誰も想像できなかったが、今思えば40年は長かったようで短い。渦潮を見て、鳴門のタイを堪能し、大塚美術館でひまわりを見て、最後は野島断層を見学。同期は大切にしたい。大切にできてよかった。



#### 5月22日 公大協職員研修で講演

「大学改革支援研究会・公立大学に関する基礎研修」というのが、去る16日（水）に本学のなんばサテライトオフィスで開催され、一時間ほど話をした。

33大学から82名、12設置団体（自治体など）から18人の参加があった。



当初は、フォーマルに「法人化と大学改革の取り組み」と題して、2年前に別の場で話した内容にしようかと思っていたが、次のリンク先にあるように文書化されているので、数値だけ更新して資料配布に留めることにした。その代わりに、少し柔らかく、自分の経歴を含めて、そのときどきに考えていたこと、迷っていたこと、記憶に残ったことなどを話した。タイトルは「システム思考で大学経営を」。公立大学には大小いろいろあるし、参加者も新人もいれば経験者もいて、さらに自治体からの出向者もいたが、親近感をもっていただき、どこか話の一部でも参考になればと願う。

#### 5月23日 羽曳野キャンパスの新しいサークル

先日、栄養療法学専攻の3回生の学生から連絡を受けた。「羽曳野キャンパスを良くしよう！」というスローガンのもと、4月にサークルを立ち上げたという。羽曳野キャンパスでの課題を考え、現状の学びに関してイベントなどの手段を用いて解決していこうと言ってくれている。Twitterで広報もしている。

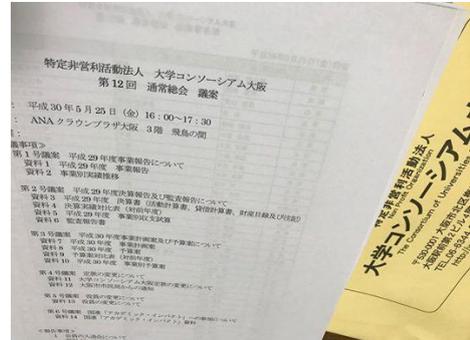
羽曳野キャンパスでは看護学類と総合リハビリテーション学類が学んでいて、それぞれ厚労省の指定のカリキュラムになっており、「幅広い学びがカリキュラムとしてあまり組み込めていない」「実習に時間がかかり多様な交流を行いにくい」など課題がある。これは、府大が大切な視点と言っている「多様・融合・国際」が看板倒れになっているという指摘でもあり、どんな応援ができるか関連する教職員とも考えていきたい。

#### 5月24日 当面の予定

25日 大阪大学コンソーシアム学長会議

26日 友好祭 10時 開会式@モニュメント前

- 27日 午前 校友会評議会@ I-site、午後 京大 複合原子力科学研究所 発足記念式典
- 28日 公立大学協会 定時総会@学士会館
- 30日 理系女子大学院生チーム IRIS 任命式@多目的ホール
- 3日 名古屋同窓会@名古屋、5日 台湾 屏東科技大学 学長来訪 交流協定調印
- 6日 台湾 淡江大学 学長来訪 交流発展意見交換
- 7日 日台学長会議 台湾大学、東華大学と面談予定
- 9日 岡山同窓会@岡山
- 11日 高専新入生向け 特別講義
- 18日 仏 LaRoche 大学 学長来訪 交流協定調印



5月25日 大学コンソーシアム大阪総会

地域の大学が集まって連携する事業のことを大学コンソーシアムとって、全国にたくさんある。特に京都は「大学から京都から他府県に出ないように」ということで府市の支援が厚く活発に活動している。

大阪には、「大学コンソーシアム大阪」というのと「南大阪地域大学コンソーシアム」という二つあって、本学は両方の会員になっている。本日前者の総会があった。会員は国立、公立、私立さまざままで42大学が参加している。いわゆる、NPO（特定非営利活動法人）だ。京都の行政と違って、大阪の二つに対しては、どちらも行政の支援が手薄になっている。これはコンソーシアム側にも活動を認知してもらうようにしていないと反省すべきだろう。

本日は、昨年度の事業報告、今年度の事業計画とともに活動認知のためのいくつかの意見交換を行った。大阪で学んだ留学生のネットワークを出身国別に大学を超えてつくってはどうか、大阪・関西万博盛上げ隊を大学リレー形式で活動してはどうか、国連アカデミックインパクトに参加してはどうか、などなど。

大学が連携して、地域にも貢献し、学生にも得るところがあり、教職員にとってもFD/SDになることが大切だと思う。逆に言うと、そういう活動ができなければ、コンソーシアム活動は負担になるだけだ。お付き合いで懇談だけをする時代ではなくなっている。

5月26日 友好祭開会式

いくつかある府大の祭りの一つの友好祭。元々府立の三大学の交流のために実施されていたが、今では地域との交流が深まっている。まずは開会式。友好祭の開会式には毎年出ているが、今年いくつかの新しい試みがあった。一つは吹奏楽の演奏。そして、クラッカーでの盛り上げ。例年、ドレスコードはスーツであるが、テーマが「祭色兼美」だったこともあり、実行委員会に事前に連絡したうえで、府大ヤッケと広報腕章着用で参加した。

5月27日 「複合原子力科学研究所」開所式典

昭和38年、熊取町に京大の附置研究所として原子炉実験所が設置され、色々な教育研究がなされてきた。当初は物理的視点から「エネルギーの研究」が中心で、実験の場として活用されてき



たが、最近の応用領域はエネルギー以外が 50%近くになり、また食料的視点、医療的視点など異分野融合の研究の場としての使命が高まっているようだ。

今回、この時代の変化が対外的にわかるように名称を変更するとともにいくつかの施策を開始したので、研究所の発足の式典が関空近くのホテルであった。私は、地元自治体や住民と実験所が意見交換する府の審議会の会長として多くの来賓とともに招待された。審議会は、原子炉の小さなトラブルでも厳しくチェックするのがミッションだ。多少うるさがられても、そして細かいことでも、システム科学・経営工学・マンマシンインタラクションの視点から気のなることは指摘していこうと改めて思う。

### 5月28日 保護者との昼食会@友好祭

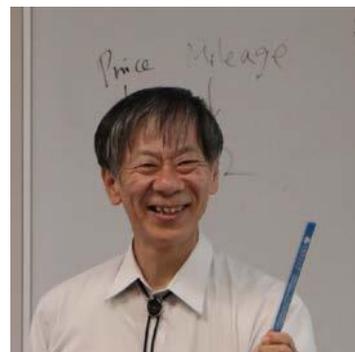
友好祭は、もともと府立の三大学の交流の場として始まったが、最近では地域の方との交流の場になっている。昨年からは、さらに保護者の方に来ていただいて、キャンパス・ツアーや在学生の発表を含むフォーラムを行っている。

今年は新たに立食形式の昼食会を企画した。応募があるかどうか不安であったが、30名定員のところを多数応募があり、結果として抽選させていただいた(落選された方には申し訳なく思う)。遠くから来ていただいた方もおられた。次から次へといろいろな質問を受け、意見を頂き、嬉しいというかどうかあるが、私は昼食抜きで午後のイベントに行くことになってしまった。

少しでも大学のことを知ってもらい、大学の応援をしていただければと願っている。卒業生、採用を担当される就職先の方々、インターンシップを受け入れてくれた会社の方々、高校や予備校の先生方、地域住民の方々、他大学の方、国、大阪府、堺市、羽曳野市、泉佐野市、寝屋川市、……。学内の教職員や学生からだけでなく、いろいろな方の声を聴く努力を続けたい。世界に翔く地域の信頼拠点として。

### 5月29日 Embry Riddle 航空大学の学生の受け入れ(3)

府大に一ヶ月滞在している同大学生に、23日特別講義をさせてもらった。Osakan English で、私の名前の漢字を最初に紹介し、白板にかけた学生にちょっとしたギフト。それから、大阪の形などをジョークで話し、私が日ごろ思っている「データ」と「情報」の違い、収集した「素データ」を意思決定に利用できる「情報」にするための技



法を演習含め紹介した。最後は、好きな十八番「カーナビ、流れ星、いびつな地図、天橋立」のメタファを写真入りで話した。ゆっくりゆっくり繰り返し話したので、90分はあっという間だった。



## 5月30日 万博PRステージ@友好祭

万博誘致の応援ソングを大阪府立桜塚高校の軽音楽部の皆さんが制作した。すでにプロモーションビデオにもなっている。彼らが友好祭で演奏してくれた。笑顔が素敵だったし、ドラムを叩く力強さが印象に残った。大阪だけでなく、全国で盛り上げが期待されている。

私は、1970年万博の時は高校生だった。未来社会が展示されていた。2025年の万博は持続性ある社会の実現がテーマ。大阪が決まったら、右肩上がりの発展ではなく持続性ある社会をテーマにした展示が期待される。



## 5月31日理系女子大学院生チーム IRIS 任命式

早いもので第8期生になる。このチームは、科学の魅力と研究のおもしろさを伝えることをミッションとして公募して参加を求めるもので、23年度は17名で始まり、25名前後で推移していたのが、昨年度、40名で驚いていたところ、今年度は51名の応募があった。

サイエンス・キャンパスとあって、小中学生らに府内の8か所で科学実験の指導を行うほか、学内外の広報イベント（府や新聞社の行事、入試説明）にも参加して、理系進学魅力を発信する。さらに女子中高生のための関西科学塾や公開講座でも活動を行う予定だ。

任命式当日は、「研究でたくさんの実験データを集めてそこから有用な情報を出してください」というメッセージを簡単な例で示した。さらに任命状を授与したのち、懇親会を行った。お願いしているミッションだけでなく、自分の専攻以外の学生同士で交流し、情報交換し、刺激を受けながら、学生生活をより質の高いものにしてくれることを願っている。



6月1日 公立大学協会総会@学士会館、28日

全国の公立大学の学長らが集まる総会があった。総会では、文科省や総務省の最近の動きが紹介される。文科省からあった話は4点。おおよそ次のようなものだった。

(1)人生100年時代に向けて

それぞれの大学のミッションの明確化、教育の質の保証、経営力の強化、設立形態の枠を超えた連携・統合。経団連からの要望として、文理の枠を超え、リベラルアーツを学んだ学生を育成されたいとのこと。

(2)経済支援

学生の経済負担軽減の施策を進めるうえで、支給要件を詰めているとのこと。文科省が、国立・私立のことだけでなく、公立のことも同じレベルで支援するよう学長からの声があがった。要件としては、実務経験のある教員の採用、理事(役員)に学部人材の登用などが議論されているらしい。

(3)将来構想

2040年を見据えた議論が中教審でなされている。18歳人口の推計はできるので、その対応が急務ということだろう。

(4)高大接続改革

学力の三要素を多面的評価することが求められている。新しい入試は2021年。



午後部 シンポジウム 14:00~16:30 (ホール白鷺(定員900名))

1. 学長からのメッセージ 大阪府立大学長 辻 洋  
2. 「大阪府立大学のキャリア育成支援の取り組み」 副学長(キャリア) 磯山 真一  
3. 「なぜ府立大はこんな大学に育つのか」 副学長(教育・人材担当) 高橋 哲也  
4. 学生プレゼンテーション 生命医歯薬工学研究科 藤岡 元貴  
 地域創生学域 池田 久保田 尚  
 工学研究科 佐藤 康幸  
 現代システム科学域 宇賀田 慶乃

5. パネルディスカッション  
 コーディネーター: 高橋 哲也(総務長)  
 パネリスト: 磯山 真一(キャリアサービス部長)、プレゼンを行った学生たち  
 副学長・学生センター長 菅野 謙彦

6. 閉会の挨拶

~ 休憩 ~

岡田 元貴 久保田 尚 佐藤 康幸 宇賀田 慶乃

生命医歯薬工学研究科 生命医歯薬学域、生命医歯薬学専攻、応用生命科学分野2年次生  
 地域創生学域、教育実践学域4年次生  
 工学研究科 博士後期課程、電子情報工学専攻、電子情報工学専攻(システム)3年次生  
 現代システム科学域、現代システム学域4年次生

6月2日 在学生の保護者のためのオープンキャンパス

5月26日、大学祭にあわせて、多くの方に大学を知っていただきたいという想いで、キャンパスツアーとシンポジウムを開催した。延べ約400名の方に参加いただいた。

アフリカに青年海外協力隊として農業支援に行った鰐渕君、知的障がい者の学習支援や手話で活躍した久保田さん、リーディング大学院で研究している保科君、地域再生の副専攻を受講した甲斐田さんの発表はいずれも素晴らしく保護者の方からは感動を受けたと言われた。彼らはそれぞれの学びを発表したのち、パネル形式で質疑に答じてくれた。本学が目指す「世界に翔く地域の信頼拠点」を支えてくれる在学生たちだ。



6月3日 政令指定市の幸福度

堺市が19位、大阪市が20位。大学は教育・研究・地域貢献・国際性などでいろいろランキングされるが、都市もランキングされるようだ。一喜一憂はしたくないが、気になる結果だ。

表3-1 総合ランキング(政令指定都市)

総合ランキング	政令指定都市	基本指標、5分野別ランキング					
		基本指標	健康	文化	仕事	生活	教育
1	浜松市	3	2	15	6	3	6
2	さいたま市	1	8	8	7	6	13
3	川崎市	2	4	12	1	11	16
4	堺市	15	16	1	15	18	1
5	名古屋市	9	6	6	2	13	15
6	横浜市の	4	13	3	10	4	18
7	広島市	8	15	7	3	15	3
8	福岡市	5	7	4	4	19	8
9	千葉市	10	3	9	14	7	10
10	仙台市	16	1	13	11	5	14
11	岡山市	7	11	10	8	17	4
12	新潟市	17	12	19	12	1	2
13	静岡市	14	10	14	13	2	7
14	熊本市	13	9	18	9	14	5
15	神戸市	19	17	5	16	16	11
16	徳島市	6	5	20	18	9	20
17	札幌市	11	14	17	20	8	12
18	北九州市	18	19	11	19	10	9
19	堺市	12	18	16	17	12	17
20	大阪市	20	2	5	20	19	19

※本表は上記のランキングについては、数字で記載している。  
 ※ランキングにあたっては、総合指標(5分野別)の順位を基本としながら、生活・仕事と教育の順位(100以内)を考慮して最終順位を決定している(2016年度からの追加指標なし)。  
 ※これらも総合指標ランキングと同様に、「基本」指標の、5分野「健康」「文化」「仕事」「生活」+「教育」の順位から5分野別ランキングが算出されている。

## 6月4日 Embry Riddle 航空大学の学生の受け入れ（4）

当初予定がなかったが、一か月府大に滞在中の ERAU 学生が友好祭で大学紹介をしてくれた。「英語で話そう」というコーナーもあって、バディが小学生を誘い込んで通訳をしたりしていた。トランプ手品をしてくれた学生もいた。



## 6月5日 弁護士資格をもつ卒業生と面会

2005年府立の三大学が統合したときに人間社会学部に入学した中井雅人さん（写真奥右手）。演劇部に所属し、法律とも学問とも無縁に感じていたところ、卒業論文で萩原弘子先生（現名誉教授＝写真左）と出会い、移住労働者問題に関心を持ったという。



本学を卒業後、法科大学院に入学し、司法試験に合格し、今は労働者側労働事件と入国管理事件を専門とされている。先日もテレビ報道されていたので見た方をおられるかもしれない。

30日、初年次ゼミのゲストスピーカーとして来校され、「外国人とは誰か（グローバル視点で国籍、市民権を考える）」という話をしてくださった。これを機会に学長室に立ち寄って頂けた。



法学部こそないが、本学にはいろいろな経歴の卒業生がいる。そのネットワークを大きくすること（Greater OPU Network）が大切だと思う。MICHI-TAKE（満ちていく・未知 Take）での取材にも応じて頂けるという。

## 6月6日 朝日新聞 x 河合塾 共同調査

受験生向けの調査を新聞社と予備校が共同実施している。2018年度の最初の結果報告の冊子を大阪府立大学特集としていただいた。それが手元に届いた。PDFも許可を得て、発信できるようにするが、今回はイメージだけ、速報として紹介したい。表紙は、B3棟。共通教育を実施している「まなびや」だ。一枚めくると新緑を超えて、Uホールや運動場。後半には、私のメッセージも（周辺からは「誰も読まへんのとちゃう」と言われながら）掲載してもらった。



学びを受け身から自主性重視へと転換をはかる初年次ゼミ、学びを自ら振り返るポートフォリオ、自身のアイデア具現化を支援するチャレンジ事業についても紹介している。在学生からのメッセージも短い文章でまとめてもらった。



最後のメッセージは「知性も個性も固い絆 すべて、アクティブな学びの姿勢から生まれる」だ。多くの受験生に本学のことを知ってもらえれば・・・。世界に翔く地域の信頼拠点をめざしている。

6月7日 今後の予定

いよいよ梅雨入り。来春の法人統合まで300日を割った。

6月11日 高専で講義「システム思考で学びの拡がり」@寝屋川

13日 米国 ERAU 歓送会@昭和風の宴会場

18日 フランス・ラロッシェル大学学長来訪 (MOU 更新) @A11 棟

後援会理事会・総会@学术交流会館

19日 グローバルリーダー育成奨励金授与式

21日 松井知事、関西経済論にて講演 @ U ホール

22日 学生会館前広場 愛称発表表彰&ネームプレート除幕

式

25日 南大阪大学コンソーシアム総会@ S キューブ

26日 経営会議@ I-site

29日 韓国総領事来校

6月8日 [依頼] つばさ基金ページリンクを

同窓会など理事会や総会のシーズンだ。声をかけていただいたら、なるべく出かけ、大学の近況を話すとともに大学を支援するご寄付をお願いしている。

ふるさと納税制度を用いて、(住民税減税があるので負担が少なく)大学のいろいろな活動を支援できる制度だ(例は写真をみてほしい)。同窓会だけでなく、入学式や学位記授与式の式辞でお願いしていて、着実に支援が広がっている。

理学系研究科の飯田先生の研究所では、基金のページへリンクをはって、支援を求めている。こういう努力は、iPS細胞の山中先生の研究所でもされている。日本ではいまだに寄付を求めることに何か躊躇いがあるが、欧米の大学では一般的だ。

課外活動を行っている各クラブ、府大の特徴となるチャレンジを行っている研究所などからも「つばさ基金」へのリンクを貼って、それぞれの活動に対する支援を求めてほしい。世界に翔く地域の信頼拠点になるために。

6月9日 日台学長会議

昨日、広島で日台学長会議があった。双方から200人を超える参加者で盛況だった。

淡江大学の載副学長には、日本との活発な交流の事例として、本学の化学分野での定期的な会議をスライドで紹介いただいた。私の名前も出してもらい、光栄であった。会議中、台湾大学、東華大学と個別面談を行ったがこの話は別途。次回の会議は2年後。台湾の暨南国際大学で。

6月10日 屏東科技大学と国際交流協定調印

6日、戴昌賢学長が日台学長会議出席の直前になかもずキャンパスを立ち寄って下さり、獣医学の交流を主たる目的としてMOUを締結した。

#### 放射線教育振興プロジェクト

寄附金を活用し、ペルチェ冷却式高性能除湿機やサーベーターなどの放射線教育振興のための物品を購入、全国の教育現場への貸与も行ってまいります。詳しくは、以下の紹介サイトをご覧ください。

<http://bigbird.riast.osakafu-u.ac.jp/~akiyoshi/Works/TsubasaFund.htm>



福島県立安達高校で実施された研究交流会でのペルチェ冷却除湿機の技術指導



屏東（ピントン）は台湾の南部にある田園都市で、以前一度訪問したことがある。農学関係の研究に力を入れているが、最近は、エンジニアリング分野と異分野融合した技術開発にも熱心に取り組んでいるようだ。

秋吉教授はすでに何度か訪問され、カテーテルなどの指導を行っているほか、共同で会議を運営されている。



#### 6月11日 卓越大学院への応募

学校教育法で、大学は次のように定められている。

-----

第八三条 大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。

2 大学は、その目的を実現するための教育研究を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。

-----

つまり、大学には、教育研究だけでなく、社会貢献が求められている。この社会貢献は、これまで産学官連携を進めること、公開講座（生涯教育）など地域貢献することが中心であった。他の大学も同じような捉え方をしている。

それに加え、大阪市大・大阪府・大阪市とここ数年に渡る議論した結果として、四者が協力して、都市シンクタンク機能、技術インキュベーション機能を持つことを目指すことにした。前者は、大阪がかかえる社会課題を解決するために、行政と大学が人事交流を含め、施策を提言していくものであり、後者は、教員個人がある企業と共同研究したり、ベンチャー企業を起こしたりするだけでなく、大阪に新たな産業（エコシステム）を興すべく組織として取り組むことだ。

この二つの取り組みを進めるうえで、複眼的なデータアーキテクトの養成が不可欠だし、予算も必要だ。関係教職員のご尽力、府市のご理解のもと、国の支援を受けるべく卓越大学院に申請した。38大学から54件の申請があり、9月下旬に採否が決まる。

#### 6月12日 ダイバーシティ環境実現イニシアティブ事業で S 評価

すでに大学 HP などでも報告しているが、JST の事業の中間評価があり、最高の S 評価を受けた。関係者全員で誇りに思う。そして、関係者の日頃のご尽力に感謝する。改めて一緒に喜びたい。

#### 6月13日 高専で特別講義@寝屋川（11日）

今年の3月に中学を卒業して、4月に入学した約160名の一年生に「システム思考で学びの拡がり」と題して授業をさせてもらった。午後一番の時間帯だったので、作業シートを配布し、いくつかのクイズを含めながら話をした。新聞売り子の話、生産計画、工程管理の話などいくつかビッグデータを集めておけば、戦略のための情報になることを示した。最後は十八番の「天橋立」や「流れ星」の話。



後日、感想文が届く。楽しみにしておきたい。今年予定していた講義はとりあえずこれですべて終了。

6月14日 クールルーム、そしてさらに・・・

省エネの夏。全学で取り組んでほしい。不在時の消灯、昼休みの消灯、適切な室温設定。

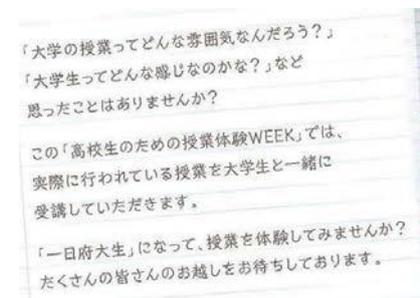
三つのキャンパスにはクールルームがある。ここを活用してほしい。休日には、大学のエネルギーを使わないぐらいの気持ちで取り組みたい。大学にいる時間の長さで成果を求めるのではなく、「より集中する」ことに「引き続き集中して」ほしい。省エネに関して、簡単にできる取り組みはすべて実行してきているので、発想をかえる必要があるだろう。環境への取り組みが2期連続で「ゴールドレート」と認定されていることに誇りをもって。



6月15日 授業体験ウィーク (19日 (火) 締め切り)

府大生へお願いだ。在学生で高校時代のクラブの後輩などに会うことがあれば、進めてほしい。オープンキャンパスとは違う大学の実際の授業を体験する企画だ。もちろん、卒業生で周辺に高校生の知人などがおられればあわせてお願いする。

当日は、資料配布コーナーを設置し、講義終了後には、希望者を対象に個別相談も行う(中百舌鳥キャンパス)。クラブの練習風景、食堂や生協購買にも後輩を案内したり、府大の特徴を紹介してほしい。



6月16日 日台学長会議での個別ミーティング (7日)

すでに10日経ってしまった。広島で行われた日台学長会議には200人を超える参加者があったが、その休憩時間(午前、午後、各30分程度)には、事前に調整しておけば会議室で個別に打合せができる。

今回、昨年訪問した東華大学と台湾大学の学長とサマープログラムについて個別相談ができた。東華大学からは、中国語学習を中心として、台湾原住民(先住民)と文化交流するプログラムを提案いただけることになった。花蓮にあり、近くの太魯閣は絶景の峡谷だ。台湾大学(学長は元府大のS氏にそっくりで驚いた)は大きな大学でどの分野で交流するかは決めきれなかった。迷うところだ。府大が台湾との交流に実績をもっていることを理解して頂き、とても前向きに受け止めて頂けたことを嬉しく思う。



6月17日 エンブリー・リドル航空大学送別会

13日、なんばにて、昭和の雰囲気のある宴会場で送別会を行った。そういえば、私が学生時代の研究室のコンパの会場は、タタミの広間で大きな円卓を囲むこんな雰囲気だった。

日本に来てから、わずか一か月の滞在でヒラガナが読めるよう



になったという学生もいた。府大に留学したいと思ったという学生、日本の良さを学んだという学生、いろいろな思い出を語ってくれた。パディと動いたというスライドショーでは、放課後や週末の楽しそうなものがいっぱいあった。

彼らは滞在中、友好祭への出展、 English Cafe への参加、部活動体験もし、浴衣の着付けもしたそうだ。「交流プログラムのモデルを作りたい」と思ってクリスマス直後に準備をはじめたものだが、関係者の努力で無事終了したことを感謝する。



#### 6月18日 (1)

本日は地震の影響で午後も含め臨時休講。詳しくはポータルに。なお、キャンパスの被害は高専含めないようです。引き続き調べて頂いています。

#### 6月18日 (2) 安否情報

現時点で既に 3300 人を超える学生がポータルから安否を入力してくれています。軽傷が 7 名で、突き指や割れたガラスで出血などということです。留学生については全員無事が確認できたと報告が来ています。

ポータルからの安否情報の入力がなく震度 6 弱の地域に住所登録されている学生さんには、学生課から連絡をとってもらっています。これが完了すると震度 5 の地域に広げる予定です。ポータルが利用できる学生さんは自ら安否情報を入力してくれると助かります。

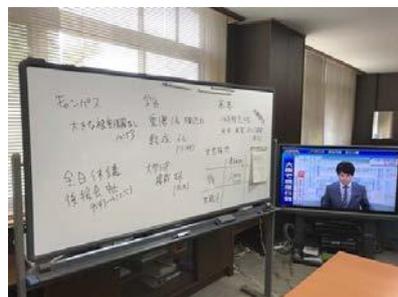
キャンパスについては、大きな被害は報告が入っていません。しかし、ブロック塀などには近づかないように注意してください。

明日からは授業を再開します。ただし、通学困難な学生や通勤困難な教員がいるので、ポータルで最新の情報を入手するよう心掛けてください。

いくつかの大学からは、お見舞いと「手伝えることがあれば・・・」という申し出を頂いています。大変ありがたいお話で、感謝していますが、今のところ大丈夫の見通しです。海外の知人からも多数お見舞いのメールを頂いています。「つながり」を感じる一瞬です。

#### 6月19日 安否確認と当日の様子

地震から一日経って、職員の努力で震度 6 以上の地域に住所登録のある学生全員の無事を確認できた。安否確認ができた学生数は 6,422 名 (全学生の 83%) になり、行方不明の災害情報がないので、電話での確認は終えた。やはり、ネットでどれだけ学生が安否を入れてくれるかで作業負荷が変わるので、今後はどうすればもっと徹底できるか反省することになっている。



当日、私は御堂筋線の大国町で 7 時 58 分に被災した。地下鉄が止まって約 3 時間足止めになり、大学に来たのは 12 時前。写真はそのときの白板とテレビの様子だ。情報が入る都度、白板に追記し、テレビは常時誰かが聞くようにしていた。

当日を時系列的に振り返ると、9時前に当日羽田から来校予定だったらラロッセル大学の学長らからフライトが遅れるとの連絡（のちにキャンセル）。9時過ぎに終日休講を決定し、ポータルやWebに掲載(私も9時41分にFB掲載)。羽曳野キャンパスから一報。9時30分に海外からのお見舞いのメール。授業以外のイベント（後援会理事会・評議会など）の対応開始。10時ごろから教職員、学生に安否情報をポータルに入れるよう連絡開始。10時53分全学の被害状況を把握（大きな災害がないことが判明）。11時49分学生が一名重傷との報告（後に誤報と判明）。13時、関係者が集まり対応協議。・・・17時、第2回対応協議。帰宅。

近く反省会をすることになっている。

#### 6月20日 履修証明プログラム

大学がその教育研究の成果を社会に還元する一つの活動として履修プログラムの提供がある。これは生涯にわたる学びの場として社会人向けに用意する教育プログラムで、体系的な知識・技術等の習得を目指して総時間数120時間以上で設定する。

本学の最初のチャレンジは地域リハビリテーション学コース。その履修生の声があるので、参考までにみてほしい。来季の募集も始まった。

このプログラム自体は分野が限られているが、各部局でも他大学の Good Practice を調べて企画してほしい。ただ、お願いするだけではいけないので、私も e-learning 教材に登場させてもらうことを考え始めた。

#### 6月21日 体育会の役員交代

4月に役員交代があり、一度、挨拶に来てくれるというのが、延び延びになっていた。大阪市大戦（府大の総合優勝）が終わり、首都大戦（7月6日ー8日：府大にて）が近くなってきたので、来てもらった。なぜか今年は物質化学類の（男子）学生が多かった。



学長室には、首都大戦の優勝旗を置くスペースがあるので、今年は奪還してほしい（写真5は2年前）。私も（当日着用する）お揃いのTシャツをいただいた。今年のテーマは「魂」。「魂」に二つの大学を点で表現し、「ダマシイ」と読むそうだ。いい思い出を作ってほしい。生涯の友人を作ってほしい。

#### 6月22日 トビタテ留学 JAPAN で米国留学した上田さん

現代システム科学域の上田さん。15日（金）に留学の報告と今後の夢について語りに来てくれた。（地震発生のためFBアップが遅れた）



小さなころから、ご家族と海外旅行に行くことが多く、国際的な仕事をしたかったそうだ。バイトを含めいろいろな経緯を通して、「自分は何をしたいのか、何をすべきか、・・・」などをつきつめて、社会共生を学ぶことに。トビタテ留学 JAPAN 制度につ

いては、この制度に合格した先輩や職員のアドバイスを心得て合格（こういうのは府大を自慢していると思う）。思い切って一年半休学。半年 語学力をアップして、ニューヨークに一年。

「生産者の素晴らしさが分かる日本茶を世界に」が自分のミッションだと気づき、帰国後、起業をめざし、活発な活動をしている。その活動を「府大でワークショップとして語りたい」というプランも企画。異分野連携で世界に翔こうとしている。初代学域長としては現代システム科学域からこういう学生が出るととても嬉しい。元気をもらった。

## 戦略・方針

- 研究戦略
- グローバル化戦略
- 学術研究に関する方針
- 人材活用の方針

### 6月23日 本学の最新の戦略・方針

大学の理念「高度研究型大学ー世界に翔く地域の信頼拠点」とあわせて、研究戦略、グローバル化戦略および学術研究に係る行動規範、オープンアクセス方針、多様な人材活用推進の基本方針、男女共同参画宣言を大学HPの一か所にとりまとめた。

これらに加えて、学生とのコミュニケーションを通して、「学生の多様な思いを大切に」「学生のキャリアパスと一緒に考えて教育する」ということを大切にしたい。

6月24日 当面の主な予定：今年も半分を終えようとしている。速い。

6月25日 Prince of Songkla University の教員、学生と面談

(本学元教授橋本喜代太先生も来校、さくらサイエンス)

南大阪大学コンソーシアム理事会・総会@S キューブ

26日 新大学推進会議・経営会議@I-site なんば

27日 リーディング大学院ステアリング委員会

29日 韓国総領事ご来校

7月2日 後援会理事会・評議員会@学術交流会館

3日 大阪信用金庫殿ご来校、新法人設立準備会議

4日 公大協理事会@東京

5日 首都大学東京 島田 晴雄理事長ご来校

6日ー8日 首都大学との定期戦 上野敦学長 らとご来校

8日 斐文会 90周年記念祝賀会@グランビア大阪

11日 留学生交流会@グローバルcommons



### 6月25日 立って行う打合せの試行中

ミーティング回数を減らす、時間を短縮する、参加者を絞る、コピーを減らす、こういうことを具体的にどうするかうまい策はないだろうか？一つの試みとして、白板を近くにおき小さな机で立って行うことを試行することにした。

これまで部屋に会った机は8名座れる。資料もいっぱいおける。その反省だ。先週の木曜日からはじめた。一日目は、結構膝にきた。一つのスタイルに固定する必然性はなからうが、工夫していきたい。

## 6月26日 トビタテ留学 JAPAN 6期生が帰国

イギリスに留学していた森本優子さんから帰国の連絡がきた。彼女は、渡航前に母校に就いて入試パンフレットを紹介してくれたり、府大の広報にもいろいろ協力してくれていた。

イギリスでの生活を忘れてしまう前に、留学生生活を動画にしているを見せてもらった。ありのままに接す、ソサエティ（課外活動）に参加するのが友達をつくる秘訣だという。イギリスで府大の宣伝をしてくれたらどうか？

## 6月27日 くすのき広場 NE x ST 銘板除幕式

学生会館の前にある「くすのき」。この木の前の広場が学生たちの集う新たな拠点となり、親しみを持って呼んでもらえるように愛称を募集していた。36名から67作品の応募があり、審査の結果、愛称が決まったので銘板の除幕式を行うとともに応募者を表彰した。NE x STは、NEXTとNestを掛け合わせた造語だ。



最優秀賞 工 安藤 頼央さん

最優秀賞 工 本田 悠真さん

優秀賞 工 花田 泰生さん

優秀賞 工 澤田 慎太郎さん

優秀賞 工 和田 知佳さん

私からの受賞者らへの挨拶は次の通り。



みなさん、こんにちは。 昼休み時間にお集まりいただきましたが、この広場の愛称を募集していたところ、ご紹介がありましたように、ここにおられる5名の方のご提案された名称が選考されたことをお喜び申し上げます。おめでとうございます。

この場をかりて、三つほどお話ししたいと思います。

はじめに、広場のシンボルツリーであるくすのきについてです。専門家である中村先生によるとかなり弱っているとのこと。ぜひシンボルツリーとしてこの木を大切にしてもらおうとともに、くすのき広場 NE x ST を学生の賑やかな集いの場所として、木にも元気を分けてあげてほしい。

つぎに本日披露された「くすのき広場 NE x ST」の商標についてです。愛称の公表は、当初、多の方で賑わう友好祭で発表する予定をしていました。1ヵ月ほど遅れ本日となったのは、NE x STという言葉がある企業により商標登録されていたためです。さいわい、当該企業とは覚書を締結し、ご厚意により無償で使用させてもらえることとなりました。この場をお借りしてこのことを紹介しておきたいと思います。

最後に、広場についてです。昨年度からノー自転車ゾーンとするなど、様々な取り組みを行ってきています。みなさんから利便性をあげるよう要望書が出ているとも聞いています。ぜひこのくすのき広場 NE x ST を新しい集いの場として利用し、愛着を持ってもらえるように、何ができるかは職員の方に考えて頂くので、ぜひこうしてほしいああしてほしいというような要望があれば教えてください。

以上で私の挨拶とします。もういちど、本日、表彰された皆様、おめでとうございます。

## 6月28日 グローバルリーダー特待生任命式(19日)

本学の多くの学生がグローバルな視点と深い専門性を兼ね備えた国際性豊かなリーダーとなって世界に貢献する人材になってほしいと願っている。大学院生になってからのプログラムは、リーディング大学院やアントレプレナー教育などを用意できたが、学士課程の低学年でもロールモデルを作っていきたいと考えてきた。

これを実現する戦略として、一昨年にグローバル特待生育成プログラムを学生課に作ってもらった。一回生の成績・活動をベースに所定の選考を行い、二回生になった時点で選考し、育成奨学金(30万円)を授与する。特待生には、入学式・オープンキャンパス・大学説明会などの大学関連行事に出席し、プレゼンテーションやスピーチを行うことが義務付けられるが、そのための教育(セミナー年数回、ミーティング年2回、メンター配置)をしっかりと行う。

今年度は、応募者の中から、幅広い学域・学類から9名を選考した。そのうち、7名が式に出席した。授業などで都合がつかなかったお二人も個別に副学長、学長特別補佐から、私のメッセージを添えて手渡してもらった。

-----当日の私の挨拶は次の通り-----

みなさん、こんにちは。昼休み時間にお集まりいただきましたが、グローバルリーダーに選考されたことをお喜び申し上げます。おめでとうございます。

今回 グローバルリーダー育成奨学金制度をはじめたわけですが、多数の成績優秀な学生さんが応募してくれ とても 嬉しく思っています。これまで 本学では、リーディング大学院プログラムや アントレプレナー育成プログラムを通じて、多くのグローバルリーダーともいべき学生が 育っています。ただ、これらのプログラムは 理系の大学院生を主な対象としていたので、より低学年から、地域保健学域や現代システム科学域ふくめ 全ての学域・学類の学生の育成にも力を注ぎたいと考えていたので、今回 すべての学域から皆さんが選抜されたことを とても 嬉しく思っています。

さて、三つのお願いをしたいと思います。

一つ目は この中に留学生の方もおられますが、ここにおられる全員が日本のことをより深く より広く知ってほしいということです。歴史や文化・芸能など いろいろなことを学んで欲しいと思います。歌舞伎や文楽、映画や絵画など 日本の良さを知っておくことが 国際交流をする上で必ず役に立ちます。図書館を活用してください。博物館や美術館を訪問してください。

二つ目は メンバー間で交流し、皆さんは一期生ですが、次年度からの二期生以降も含め ネットワークを構築してほしいと願っています。「同じ釜の飯を食った仲はいつまでも交流が続く」と言われていますが、府大の中である観点で選ばれた皆さんが 将来にわたってつながりをもっていくことは 必ず 役に立ちます。ネットワークで行うイベントには ぜひ 大学の教職員を招いて、この制度の改善案などを 積極的に 提案してください。



最後の三つ目は、府大の広報に協力して頂きたいということです。残念ながら 本学は実力に比べて知名度が低いという悩みをもっています。今、全員広報宣言といって教職員全員で大学を知ってもらうための取組をしています。ここに磁石とシールがあるので、磁石は皆さんの部屋などで使って広報することを思い出してください。シールも何かの持ち物に貼って広報することを思い出してください。大学から、広報の協力をお願いをしますが、ぜひ積極的に協力をお願いします。

以上、三つのお願いをもって私の挨拶とさせていただきます。本日はおめでとうございます。

#### 6月29日 タイからの訪問者（25日）

現代システム科学域の柳本先生が中心になって、プリンス・オブ・ソンクラ大学プーケット校の教員1名と学生10名が来校。10日間、府大生と一緒に勉強するほか、近隣の企業や博物館を訪問する。

この大学では、元・現代システム科学域の橋本喜代太教授が教鞭をとっている。その縁もあり、柳本研究室とはTV会議システムを用いて頻繁に打合せをしている。

地図情報システムの研究をしているという学生がいたので、「白板にタイの絵を描けますか？」と話を向けたら、さっと描いてくれた。象の顔に見える。別の学生に「日本の形を描ける？」とたずねたら、やはりさっと描いてくれた。国際交流するとき、相手国（あるいは街）の地理、歴史、文化などを調べておきたいものだ。少し準備するだけで、会話が弾む。



#### 6月30日 2011年卒 高橋敦氏来訪（27日）

2005年に府立の三大学が統合し、法人化された。その前年、2004年は、経営工学科の最後の入学生があった年で、そのときの学生が本日紹介する高橋君。

私の研究室に配属されたときに「海外の大学で学びたい」という強い希望があり、しかも「どうせなら修士号をとりたい」と言い続けていたので、フランスのEISTIとダブルデグリープログラムを作った（今だから言えるが彼のために作ったようなもので、その後は一方的にフランスから府大に来るばかりだったが、昨年やっと二人目がフランスに行っている）。

入学7年後2011年、P社に入社。2年間の米国研修を経験し、最近はある高齢化社会に対応したビッグプロジェクトをまとめて成果を出してきた。入社して7年の2018年だ。面白くてやりがいがあるが、長期的にみると、高齢化社会のビジネスは、今から7年後の2025年に大きくブレークすると確信し、一皮も二皮もめくれるため、来月から（会社を休んで）シンガポールの南洋理工大学のMBA取得を目指すという。90人のクラスに28か国の試験を合格した人が入学し、勉学とともに強固なグローバルネットワークをつくる。

教え子から、キャリアパスの作り方を学んだ気がした。偶然かもしれないが、7年刻みで転機を自ら作っている。府大生がシンガポールに行くことがあればぜひ彼を訪問してほしい。大学を案内し、大学生活、彼の人生を熱く語ってくれるだろう。

